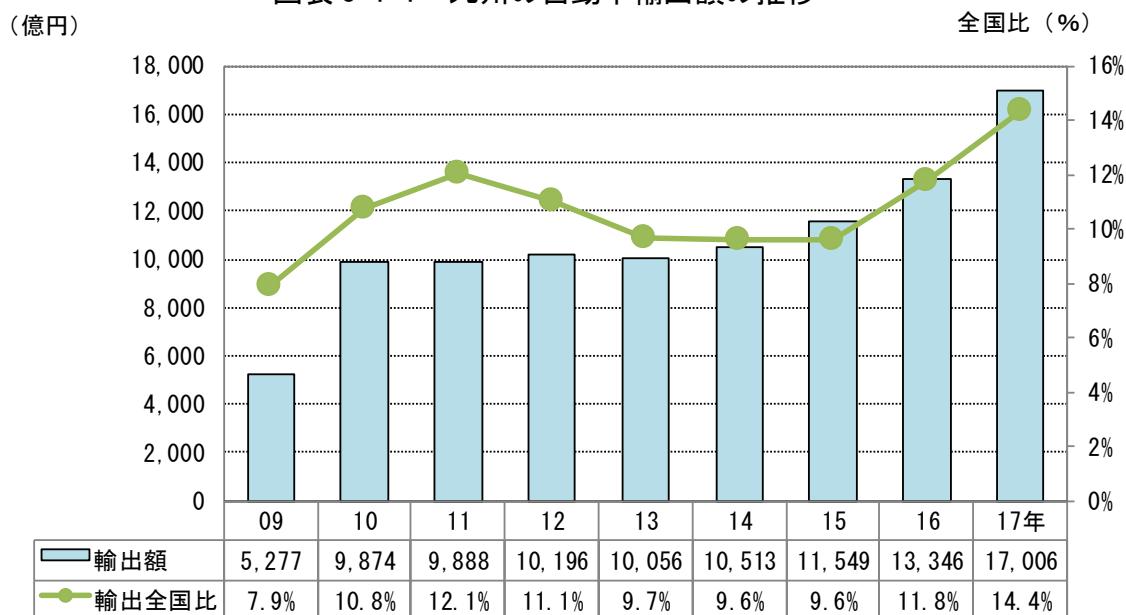


第3章 九州の産業別貿易動向

1. 自動車・自動車の部分品

- 2017年の九州の自動車輸出額は1兆7,006億円（前年比27.4%増）で前年より増加し、4年連続の増加となった。輸出先は、米国が最も多く、次いで中国、アラブ首長国連邦等であった。
- 2017年の九州の自動車生産台数は、139万台（前年比3.1%増）で、日本全体の生産台数（969万台）の約14%を占めた。

図表 3-1-1 九州の自動車輸出額の推移



図表 3-1-2 自動車の主な輸出相手国・地域の推移（2011年・2016年）

（単位：億円、%）

2012年			2017年		
	金額	構成比		金額	構成比
全国			全国		
米国	30,330	32.9%	米国	45,684	38.6%
オーストラリア	7,525	8.2%	オーストラリア	8,021	6.8%
ロシア	6,242	6.8%	中国	5,592	4.7%
中国	4,794	5.2%	アラブ首長国連邦	4,493	3.8%
アラブ首長国連邦	3,236	3.5%	カナダ	3,708	3.1%
その他	40,122	43.5%	その他	50,755	42.9%
計	92,250	100.0%	計	118,254	100.0%
九州			九州		
米国	4,532	44.4%	米国	6,369	37.5%
中国	2,206	21.6%	中国	4,009	23.6%
ロシア	502	4.9%	アラブ首長国連邦	1,243	7.3%
アラブ首長国連邦	500	4.9%	メキシコ	640	3.8%
カナダ	455	4.5%	英国	606	3.6%
その他	2,001	19.6%	その他	4,139	24.3%
計	10,196	100.0%	計	17,006	100.0%

図表 3-1-1～2 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

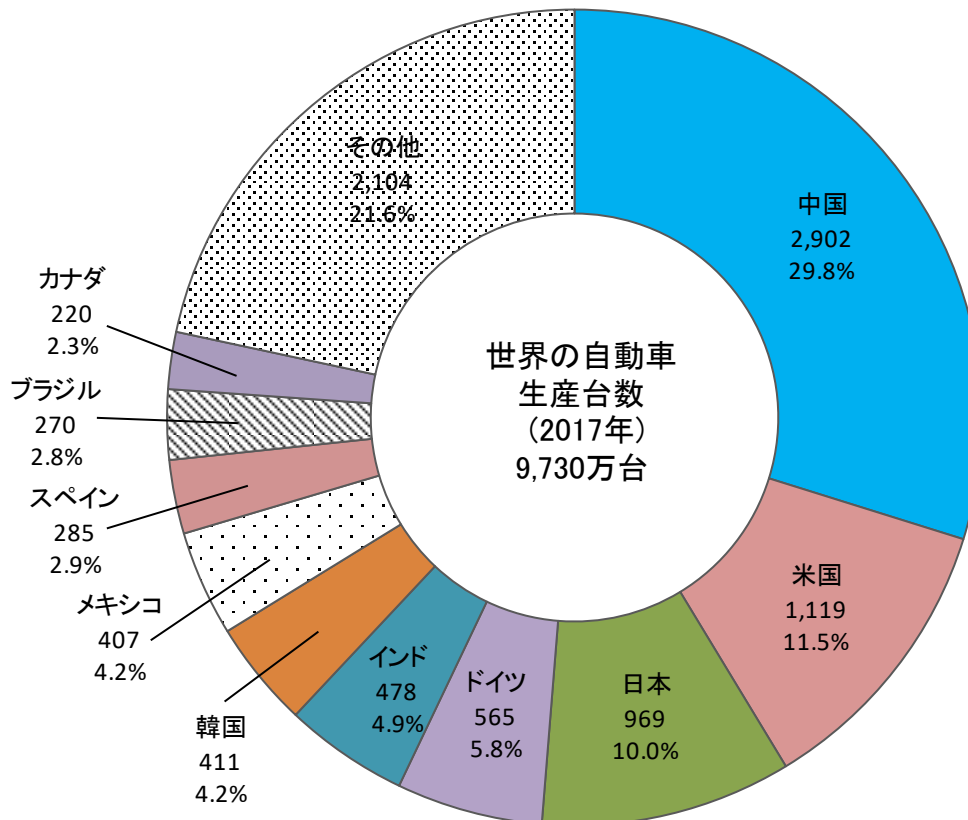
図表 3-1-3 世界の自動車生産台数

(単位：万台、%)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2017年		
							構成比	伸び率	11年比
ヨーロッパ	1,986	1,992	2,043	2,117	2,149	2,216	22.8%	3.1%	11.6%
米州	2,009	2,113	2,122	2,096	2,082	2,067	21.2%	-0.7%	2.9%
アジア大洋州	4,370	4,582	4,740	4,788	5,185	5,354	55.0%	3.3%	22.5%
日本	994	963	977	928	920	969	10.0%	5.3%	-2.5%
九州	146	134	130	135	135	139	1.4%	3.1%	-4.8%
中国	1,927	2,212	2,373	2,457	2,812	2,902	29.8%	3.2%	50.6%
韓国	456	452	452	456	423	411	4.2%	-2.7%	-9.8%
インド	417	390	384	416	452	478	4.9%	5.8%	14.6%
タイ	243	246	188	191	194	199	2.0%	2.3%	-18.1%
その他	332	319	365	341	383	394	4.1%	3.0%	19.0%
アフリカ	59	64	72	84	90	93	1.0%	3.1%	58.8%
世界計	8,424	8,751	8,978	9,084	9,506	9,730	100.0%	2.4%	15.5%

図表 3-1-4 世界の自動車生産台数の国・地域別構成比

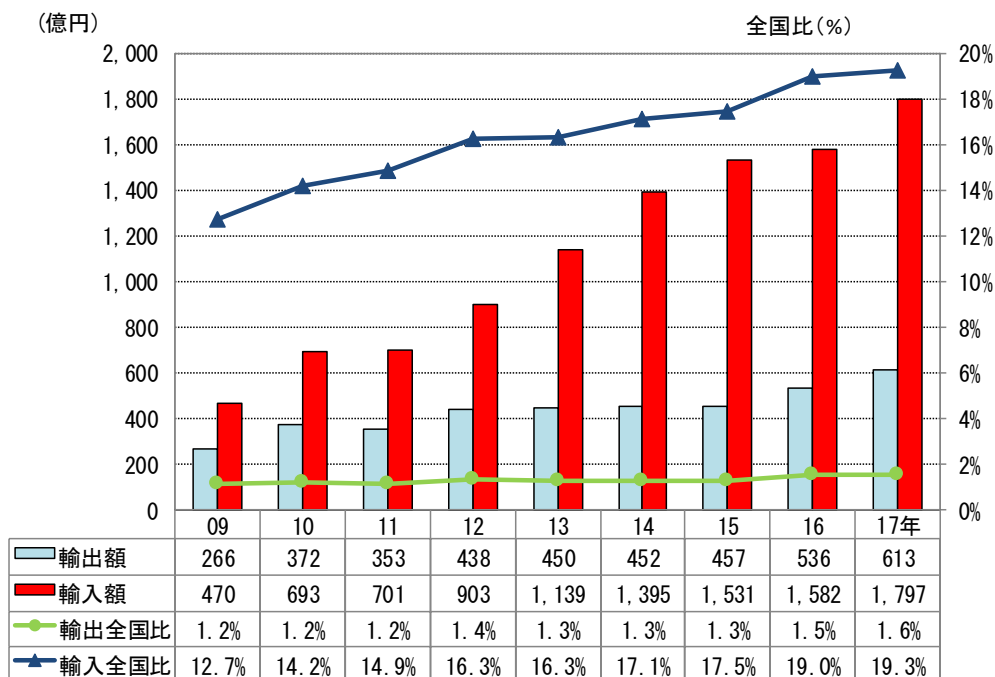
(単位：万台、%)



図表 3-1-3~4 出所：国際自動車工業連合会HP、九州経済産業局資料より九州経済産業局作成。

- 2017年の九州の自動車の部分品の貿易額は、輸出が613億円（前年比14.4%増）で前年より増加し、6年連続の増加となった。一方、輸入も1,797億円（前年比13.6%増）で前年より増加し、調査開始以来、毎年の増加となった。
- 九州の輸出相手国・地域では、米国が最も多く、次いでマレーシア、ロシアであった。前年と比較すると、米国向けの割合が大きく増加した一方、ASEAN向けの割合は大きく減少した。
- 九州の輸入相手国・地域では、中国が最も多く、次いでメキシコ、韓国であった。前年と比較すると、メキシコからの割合が増加した一方、中国、ASEAN、韓国からの割合は減少した。

図表 3-1-5 九州の自動車の部分品貿易額の推移



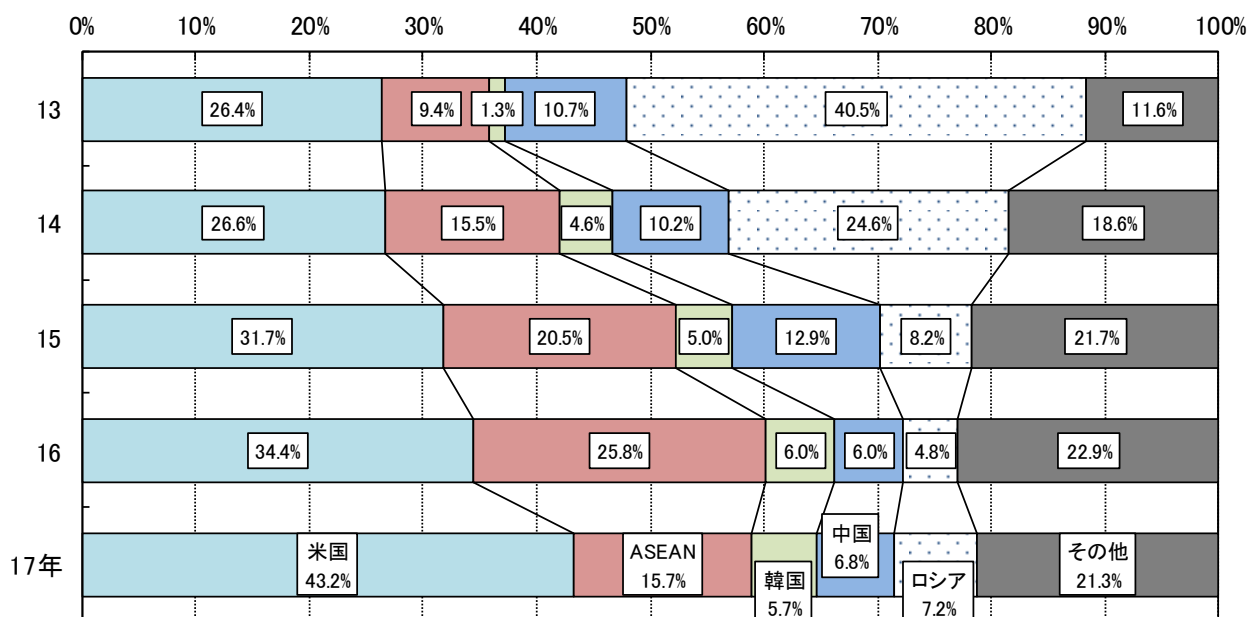
図表 3-1-6 自動車の部分品の主な輸出入相手国・地域（2016年）

（単位：億円、%）

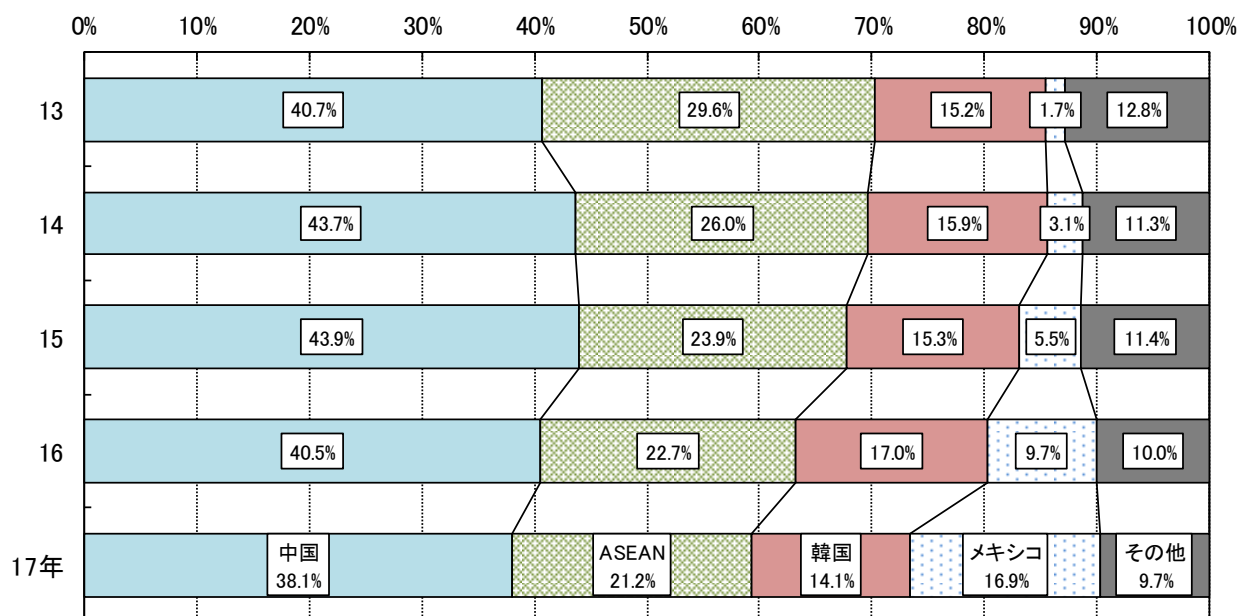
輸出			輸入		
	金額	構成比		金額	構成比
全国			全国		
米国	9,614	24.7%	中国	3,372	36.2%
中国	8,113	20.8%	タイ	887	9.5%
タイ	2,890	7.4%	韓国	836	9.0%
メキシコ	2,030	5.2%	ドイツ	737	7.9%
インドネシア	1,824	4.7%	メキシコ	580	6.2%
その他	14,496	37.2%	その他	2,916	31.3%
計	38,966	100.0%	計	9,328	100.0%
九州			九州		
米国	265	43.2%	中国	684	38.1%
マレーシア	53	8.6%	メキシコ	304	16.9%
ロシア	44	7.2%	韓国	254	14.1%
中国	42	6.8%	タイ	198	11.0%
カナダ	35	5.8%	米国	76	4.2%
その他	174	28.3%	その他	282	15.7%
計	613	100.0%	計	1,797	100.0%

図表 3-1-5~6 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 3-1-7 九州の自動車の部分品の輸出相手国・地域の推移



図表 3-1-8 九州の自動車の部分品の輸入相手国・地域の推移

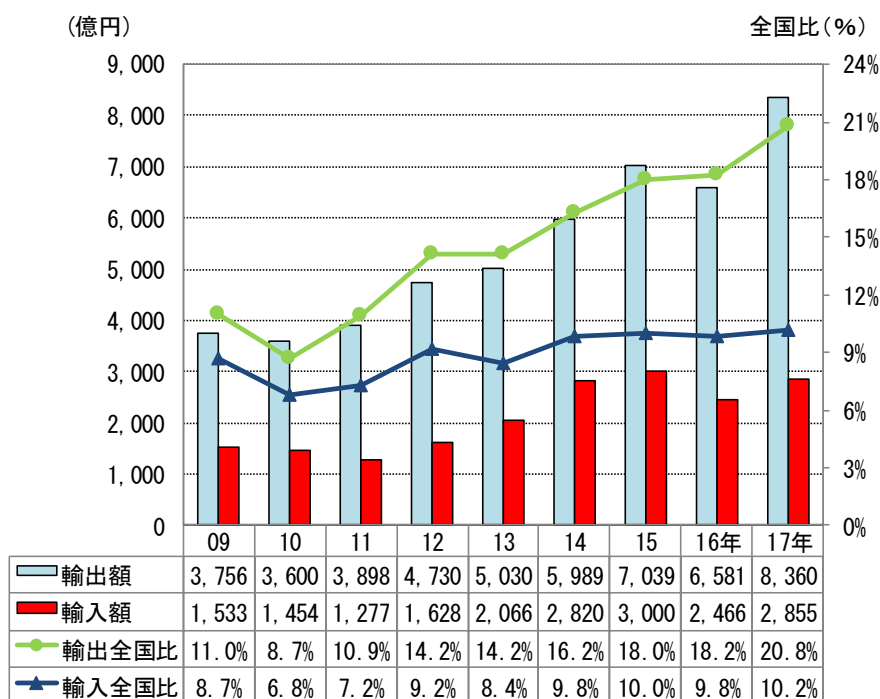


図表 3-1-7~8 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

2. 半導体等電子部品

- 2017年の九州の半導体等電子部品貿易額は、輸出が8,360億円（前年比27.0%増）で前年より増加した。一方、輸入も2,855億円（前年比15.8%増）で前年より増加した。
- 九州の輸出相手国・地域では、香港向けが最も多く、次いで韓国、中国であった。直近の5年間で、香港向けの割合が2倍以上増加し、中国向けの割合は半分以下と大きく減少した。
- 九州の輸入相手国・地域では、台湾からが最も多く、次いで中国、韓国であった。直近の5年間で、台湾からの割合が2割から7割へと大きく増加し、中国、韓国、ASEANからの割合が大きく減少した。

図表 3-2-1 九州の半導体等電子部品貿易額の推移



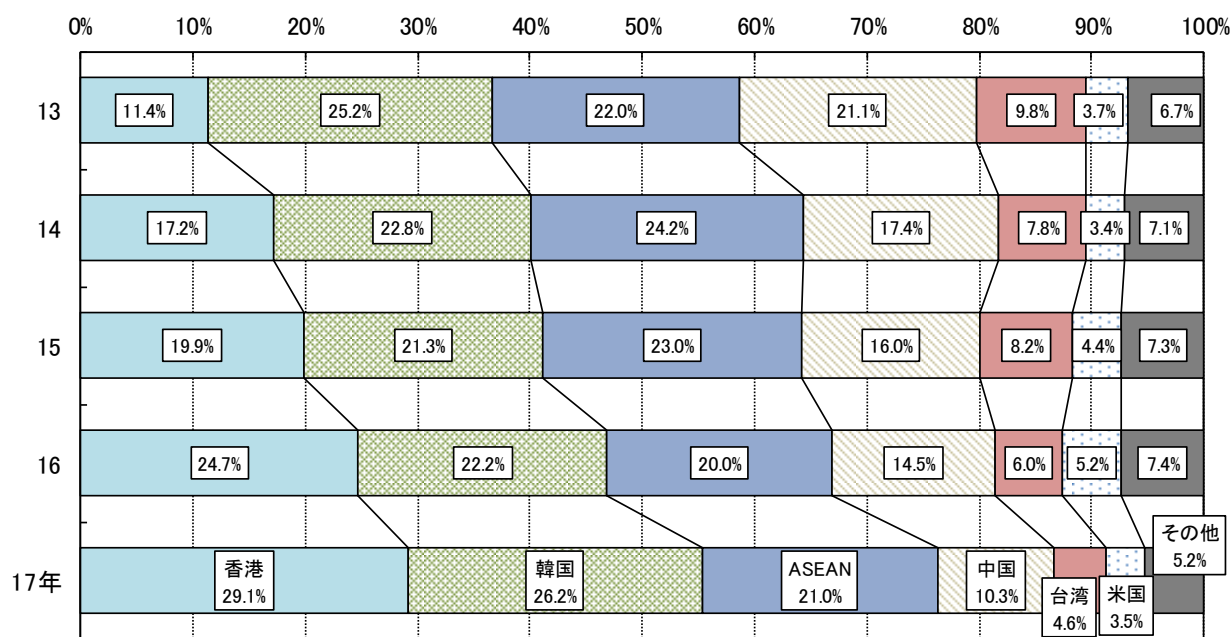
図表 3-2-2 半導体等電子部品の主な輸出入相手国・地域（2016年）

（単位：億円、%）

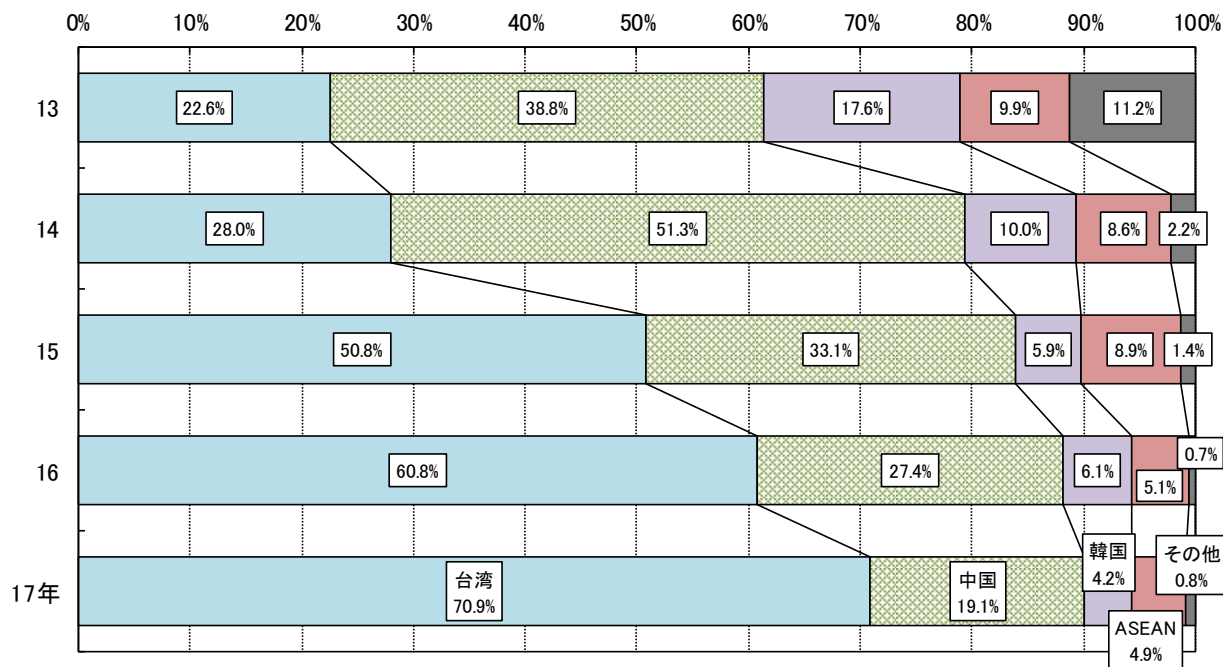
輸出			輸入		
	金額	構成比		金額	構成比
全国			全国		
中国	10,456	26.0%	台湾	11,490	41.1%
台湾	6,658	16.6%	中国	4,992	17.9%
香港	6,586	16.4%	米国	2,945	10.5%
韓国	3,274	8.1%	韓国	2,391	8.6%
米国	2,486	6.2%	マレーシア	1,525	5.5%
その他	10,764	26.8%	その他	4,622	16.5%
計	40,225	100.0%	計	27,966	100.0%
九州			九州		
香港	2,435	29.1%	台湾	2,025	70.9%
韓国	2,191	26.2%	中国	546	19.1%
中国	865	10.3%	韓国	121	4.2%
ベトナム	839	10.0%	フィリピン	46	1.6%
タイ	429	5.1%	マレーシア	38	1.3%
その他	1,601	19.2%	その他	79	2.8%
計	8,360	100.0%	計	2,855	100.0%

図表 3-2-1~2 出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

図表 3-2-3 九州の半導体等電子部品の輸出相手国・地域の推移



図表 3-2-4 九州の半導体等電子部品の輸入相手国・地域の推移

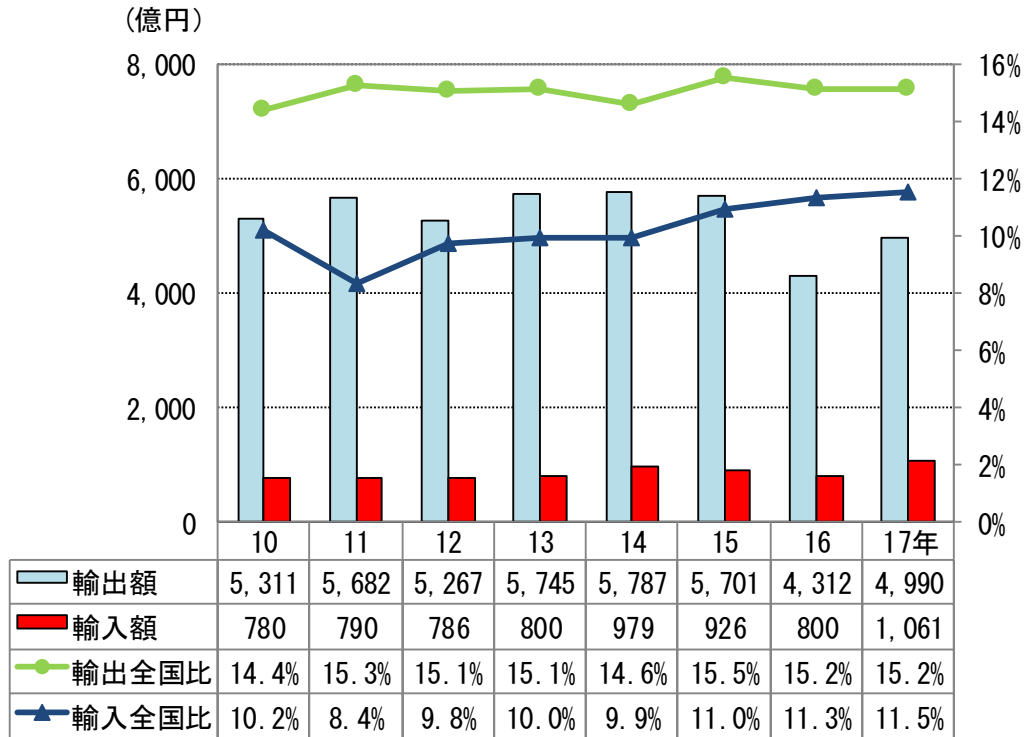


図表 3-2-3~4 出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

3. 鉄鋼

- 2017年の九州の鉄鋼貿易額は、輸出が4,990億円（前年比15.7%増）で前年より増加した。一方、輸入も1,061億円（前年比32.6%増）で前年より増加した。
- 輸出先はタイが最も多く、次いで韓国、中国となり、輸入元は韓国が最も多く、次いで南アフリカ共和国、中国であった。
- 2017年の九州の粗鋼生産量は15百万トンで、日本全体の生産量（105百万トン）の約14%を占めた。

図表 3-3-1 九州の鉄鋼貿易額の推移



図表 3-3-2 鉄鋼の主な輸出入相手国・地域（2016年）

（単位：億円、%）

輸出			輸入		
	金額	構成比		金額	構成比
全国			全国		
中国	5,514	16.8%	韓国	3,283	35.7%
韓国	4,485	13.7%	中国	1,637	17.8%
タイ	4,410	13.4%	台湾	848	9.2%
米国	2,134	6.5%	カザフスタン	721	7.8%
台湾	2,123	6.5%	南アフリカ共和国	405	4.4%
その他	14,177	43.2%	その他	2,305	25.1%
計	32,844	100.0%	計	9,199	100.0%
九州			九州		
タイ	832	16.7%	韓国	449	42.3%
韓国	696	14.0%	南アフリカ共和国	114	10.7%
中国	655	13.1%	中国	112	10.6%
米国	373	7.5%	カザフスタン	109	10.3%
メキシコ	268	5.4%	ブラジル	79	7.5%
その他	2,165	43.4%	その他	198	18.6%
計	4,990	100.0%	計	1,061	100.0%

図表 3-3-1～2 出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

図表 3-3-3 主要国の粗鋼生産量

(単位：百万トン、%)

	2014年	2015年	2016年	2017年	構成比
中国	822	804	808	832	49.7%
EU	169	166	162	169	10.1%
日 本	111	105	105	105	6.2%
うち九州	16	16	16	15	0.9%
インド	87	89	95	101	6.1%
米国	88	79	78	82	4.9%
ロシア	71	91	71	71	4.3%
韓国	72	70	69	71	4.2%
トルコ	34	32	33	38	2.2%
ブラジル	34	33	31	34	2.1%
その他	181	152	176	172	10.3%
世界計	1,669	1,620	1,628	1,675	100.0%

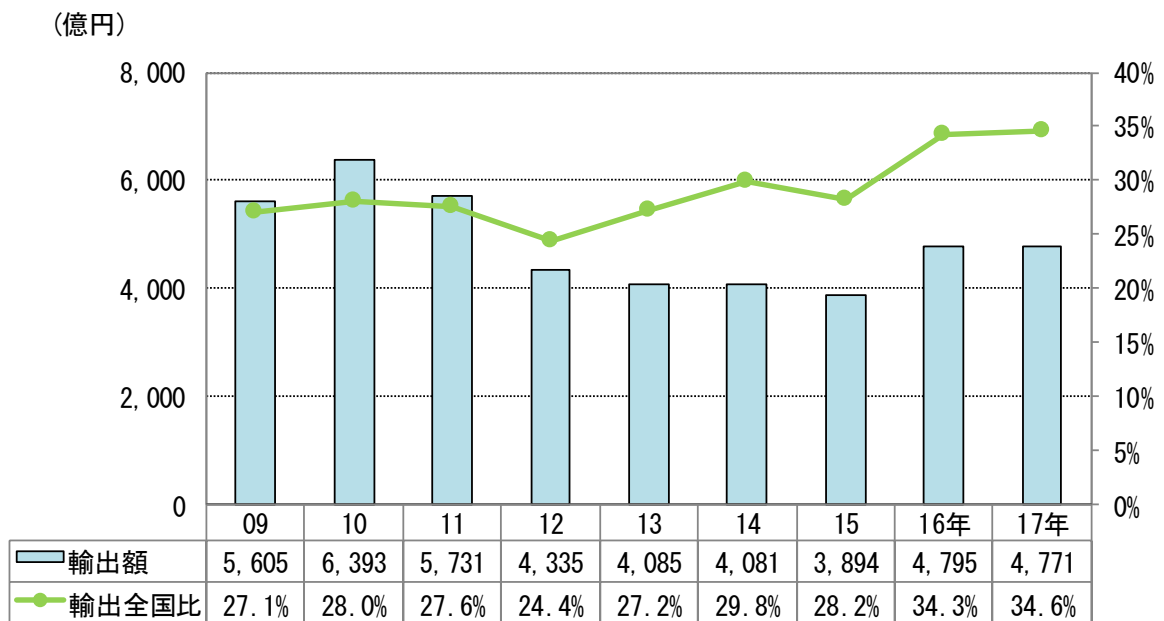
備考：EUはクロアチアを除く 27 カ国の計

出所：（一社）日本鉄鋼連盟資料より九州経済産業局作成。

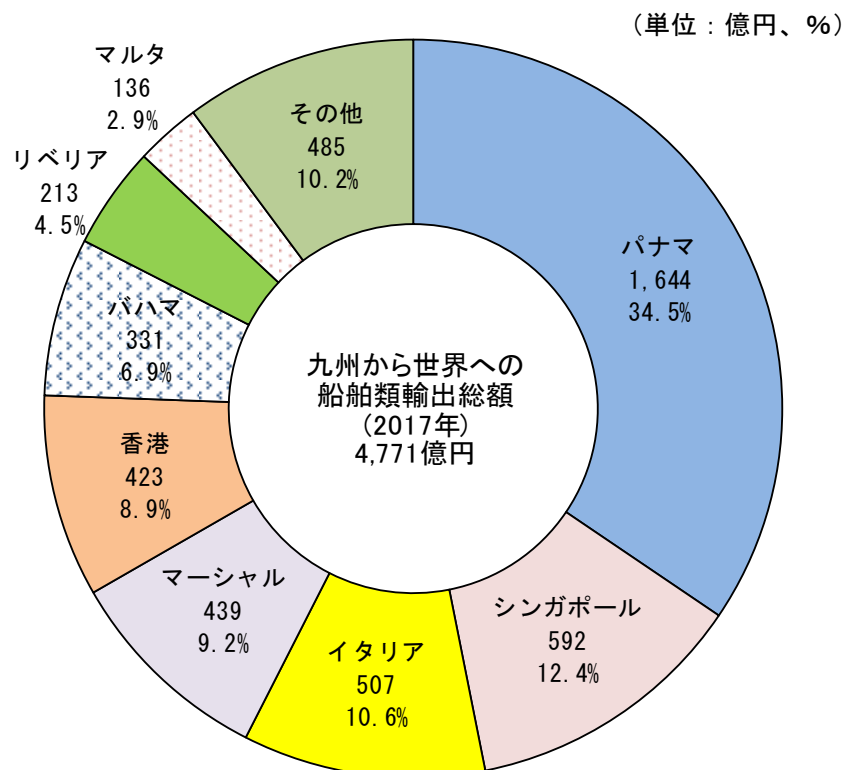
4. 船舶類

- 2017年の九州の船舶類輸出額は4,771億円（前年比0.5%減）で前年より減少した。輸出先はパナマが最も多く、次いでシンガポール、イタリアであった。
- 船舶類については、九州の輸出額が全国（13,768億円）の34.6%を占めており、九州の主力輸出品目の一つである。

図表 3-4-1 九州の船舶類の輸出額推移



図表 3-4-2 九州の船舶類の輸出相手国・地域

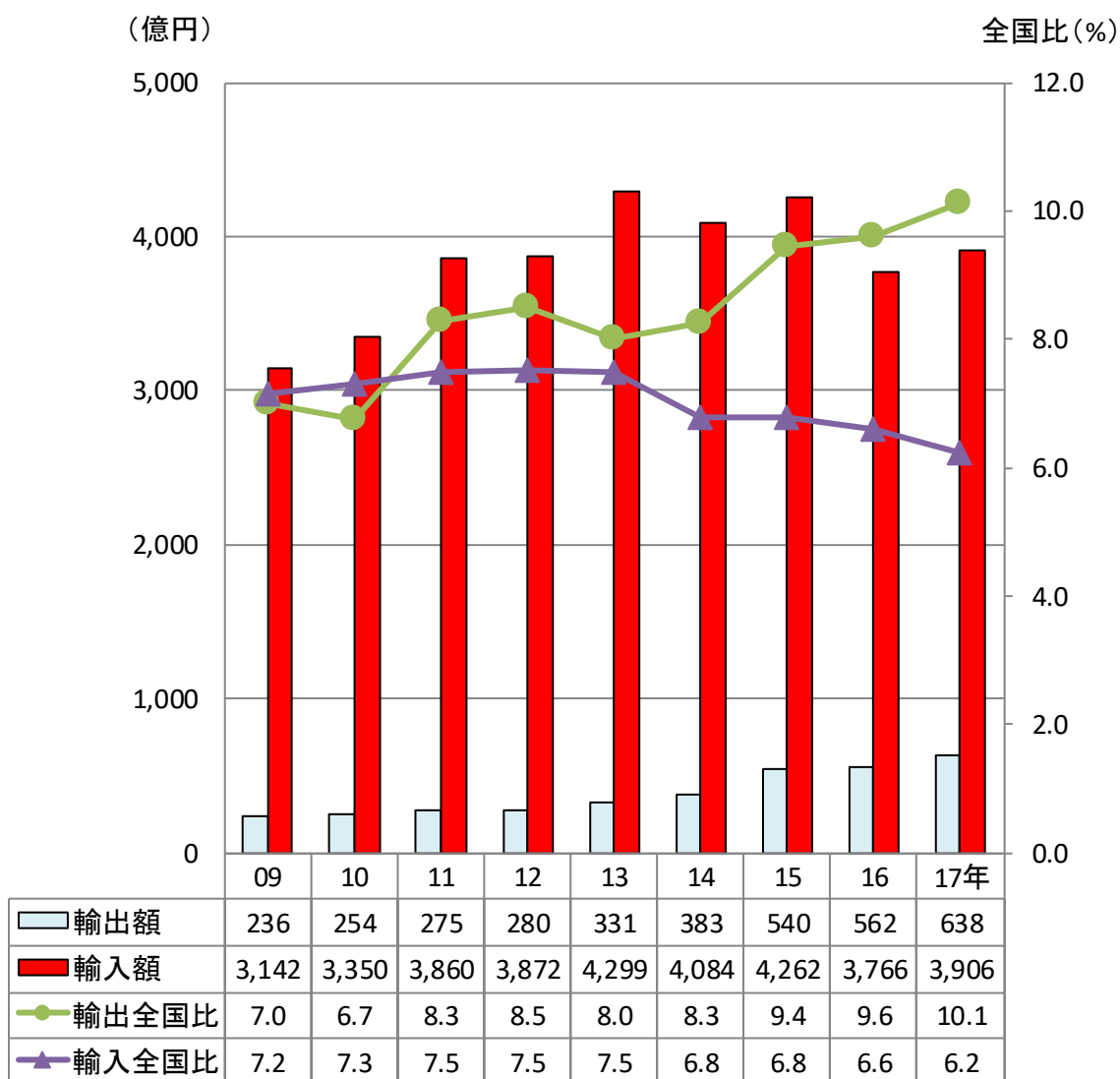


図表 3-4-1~2 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

5. 食料品

- 2017年の九州の食料品貿易額は、輸出が638億円（前年比13.5%増）で前年より増加し、2009年から毎年の増加となった。一方、輸入も3,906億円（前年比3.7%増）で前年より増加した。なお、輸出額から輸入額を引いた貿易収支は、大幅な輸入超過が続いている。
- 輸出はアジアや北米向けが多く、品目としては魚介類及び同調製品が5割近くを占めた。一方、輸入は北米やアジアのほか、中南米や大洋州など、より多様な国々との取引となっており、品目としては穀物類及び同調製品と魚介類及び同調製品が多い。

図表 3-5-1 九州の食料品貿易額の推移

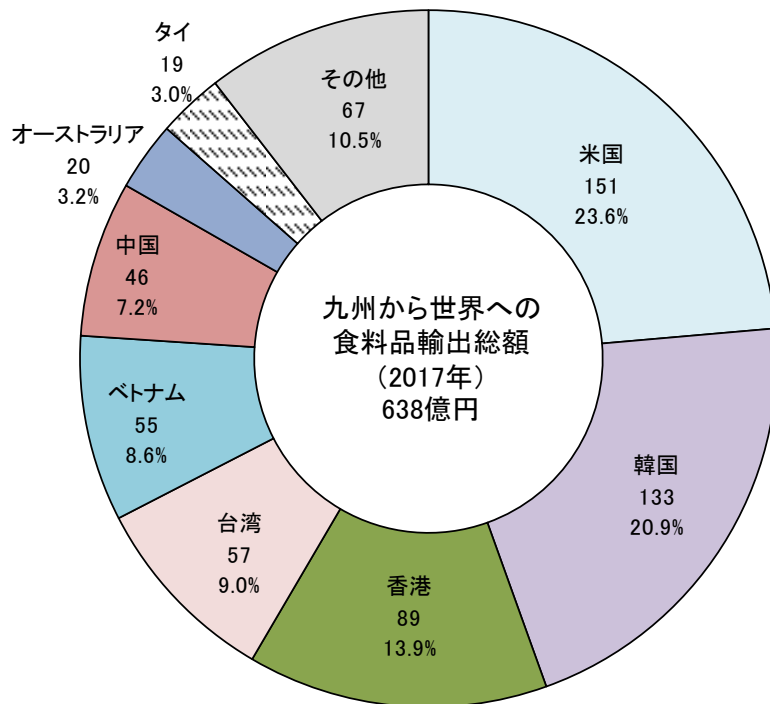


備考：「食料品」とは、「食料品及び動物（大分類）」、「飲料（中分類）」、「動植物性油脂（大分類）」を足したもののから、「生きた動物（中分類）」、「飼料（中分類）」、「加工油脂及びろう（中分類）」を差し引いたものとする。

出所：財務省「貿易統計」、門司税関提供のデータより九州経済産業局作成。

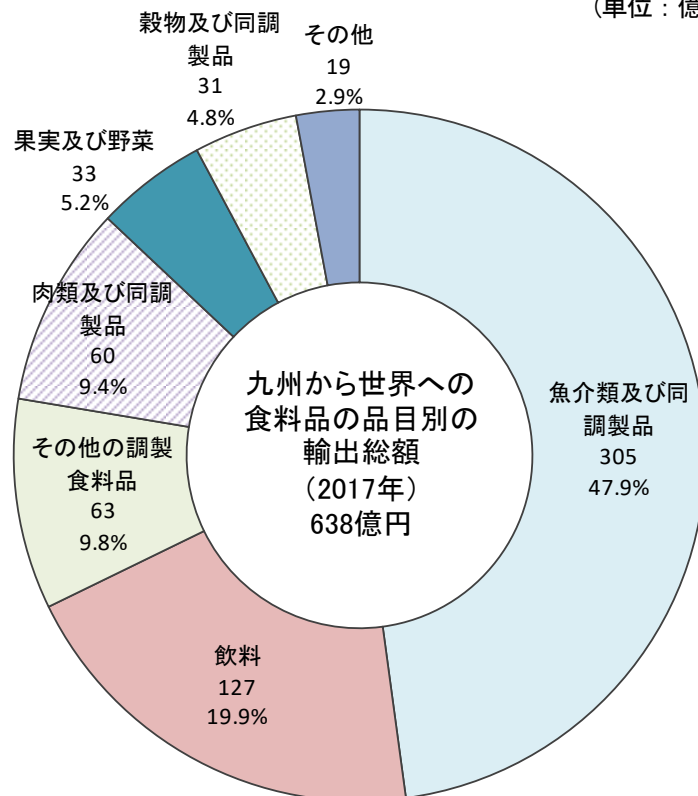
図表 3-5-2 九州の食料品の国・地域別輸出額

(単位：億円、%)



図表 3-5-3 九州の食料品の品目別輸出額

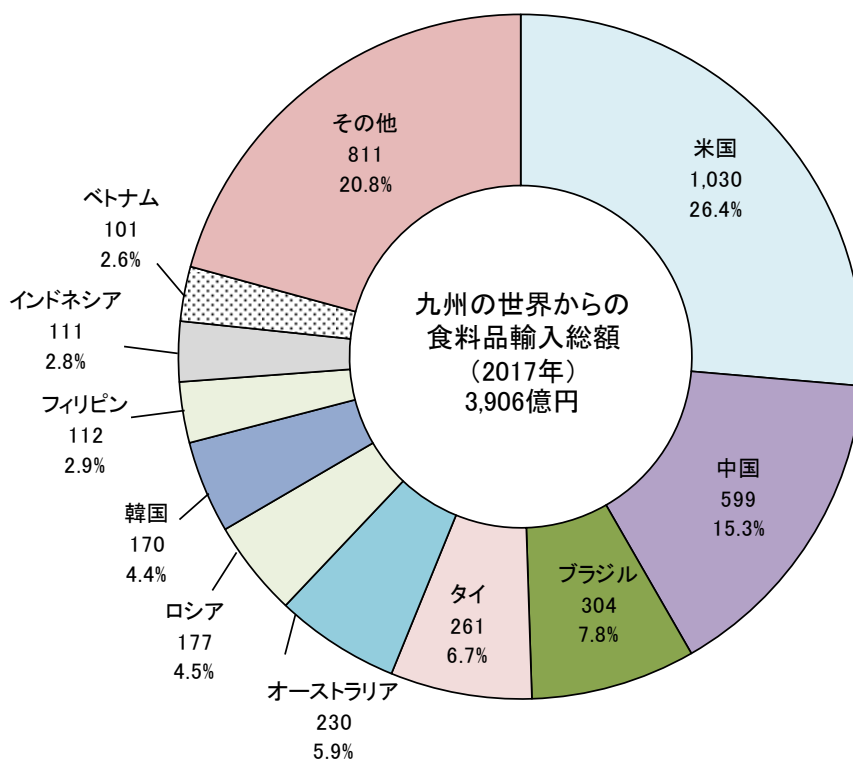
(単位：億円、%)



図表 3-5-2~3 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

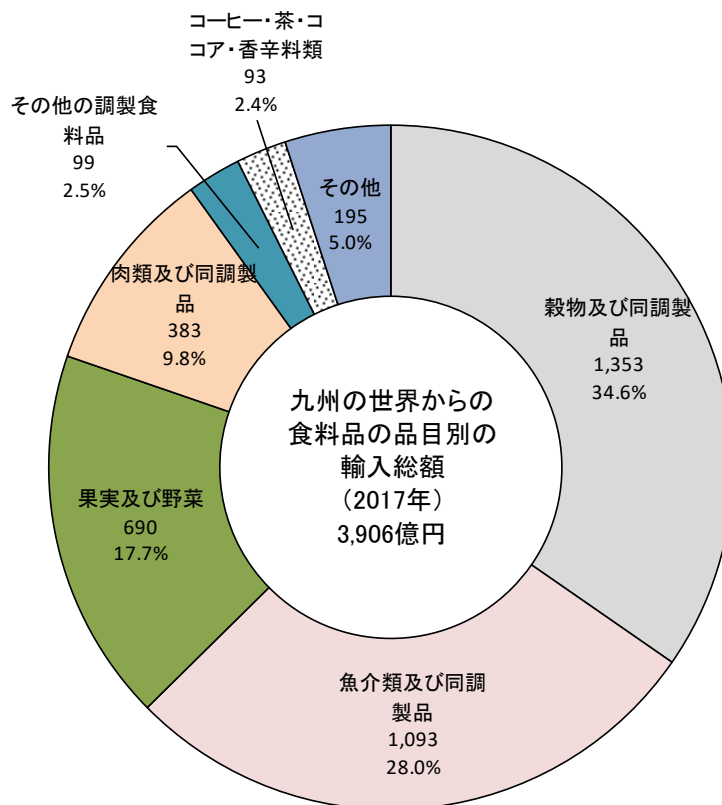
図表 3-5-4 九州の食料品の国・地域別輸入額

(単位：億円、%)



図表 3-5-5 九州の食料品の品目別輸入額

(単位：億円、%)



図表 3-5-4~5 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

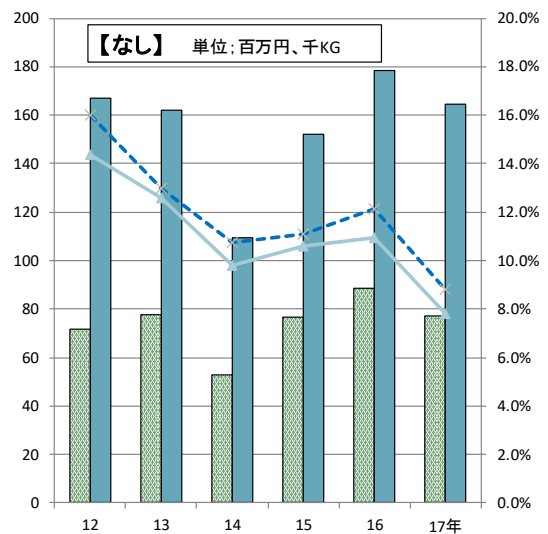
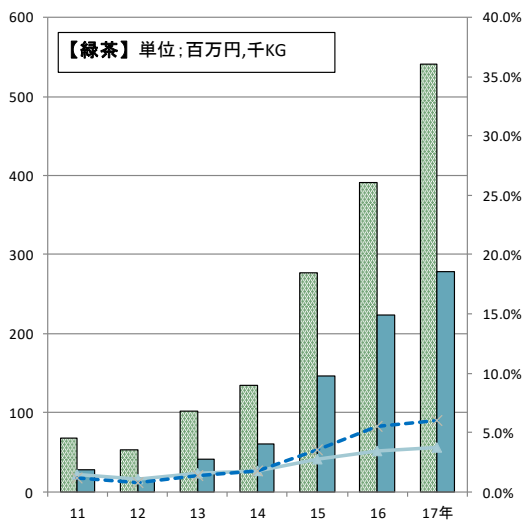
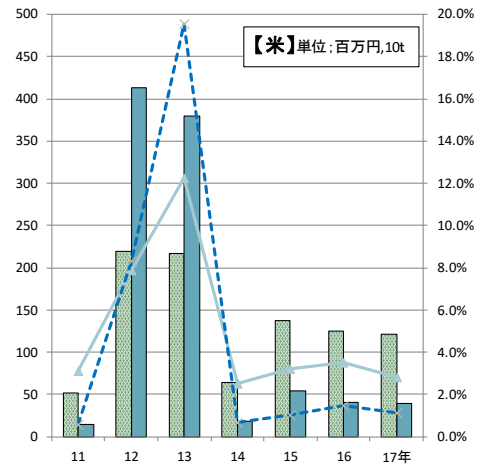
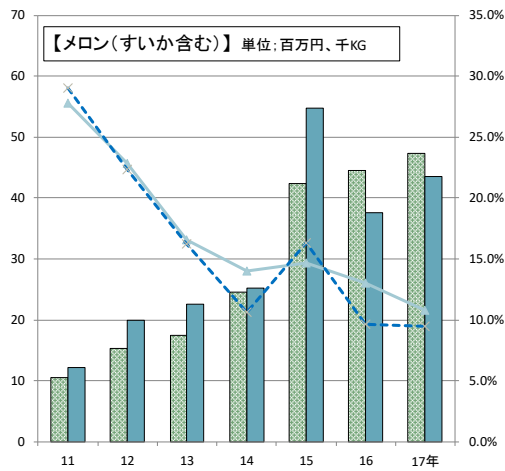
6. 農林水産物及び加工品

●近年、各種農林水産物の輸出額及び輸出数量が伸びており、さまざまな国に輸出されている。主要な農林水産物について、輸出動向は以下のとおり。

図表 3-6-1 九州の主要な農林水産物の輸出額・数量推移

① 野菜・果物等





参考

野菜等の輸出に際し、最も重要な貯蔵条件は、品目によりそれぞれ異なっており、水分の多い野菜は貯蔵日数が短く、根菜類は長い傾向にある。

品目	貯蔵最適温度(°C)	貯蔵限界(目安)
サツマイモ	13~15	4~7月
イチゴ	0	7~10日
トマト(完熟)	8~10	1~3週間
トマト(緑熟)	10~13	2~5週間
メロン(ネットメロン)	2~5	2~3週間
メロン(その他)	7~10	3~4週間

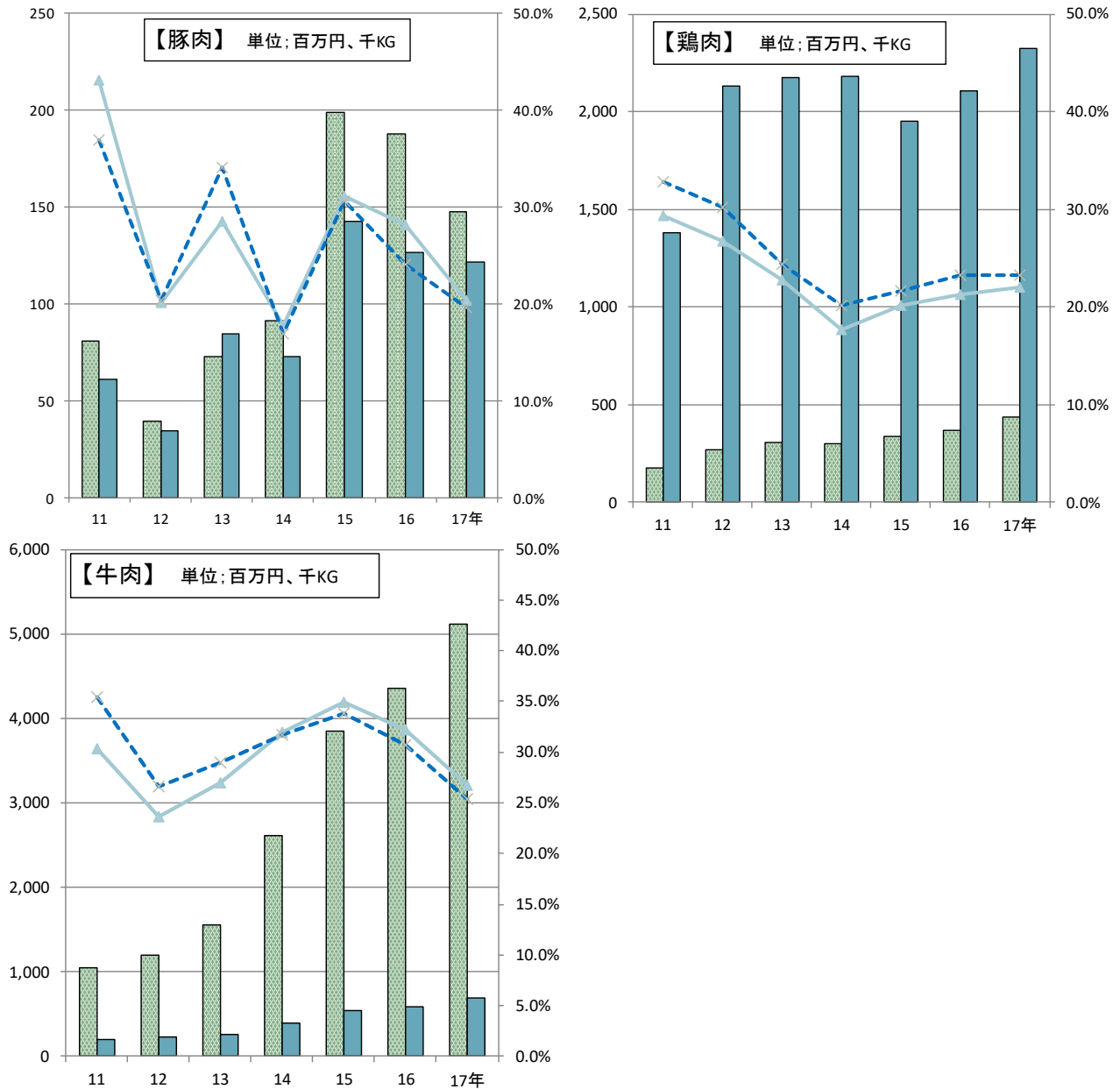
出所: (独)農研機構・野菜茶業研究所「野菜の最適貯蔵条件」を参考に作成。

海外への生鮮食料品等の流通においては、生産段階から消費段階まで低温に保ちながら流通されるしくみ「コールドチェーン」の整備が進められている。

- 野菜・果実等は輸出額が毎年少しずつ増加している。特に、かんしょ、ストロベリー、トマト、メロン(すいか含む)、緑茶は輸出額が増加傾向にある。
- 輸出額が大きい野菜・果物等はストロベリー、緑茶等で、輸出額の全国比が高いものは、トマト、ストロベリー、みかん等となっている。

備考: HSコードは次のとおり。【かんしょ】071420、【ストロベリー】081010、【トマト】070200、【みかん】080521、【メロン】0807、【米】100610、100620、100630、100640、【緑茶】090210、090220、【なし】080830

② 肉類

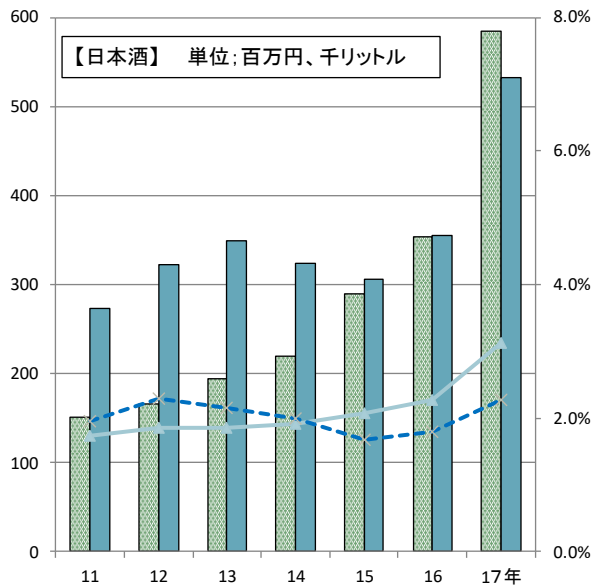
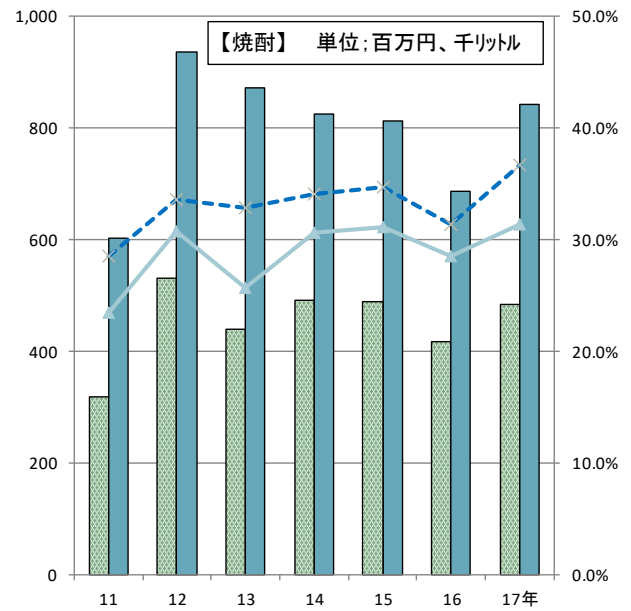
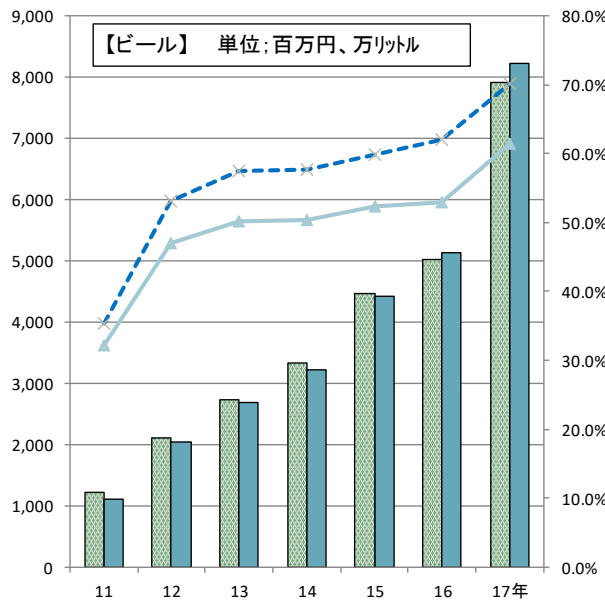


○牛肉の輸出額は年々増加しており、2011年と比べて約5倍に増加した。

備考：HSコードは次のとおり。【豚肉】0203、【鶏肉】020711、020712、020713、020714、
【牛肉】0201、0202、020610、020629

③ 酒類

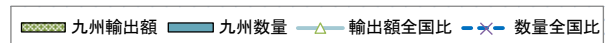
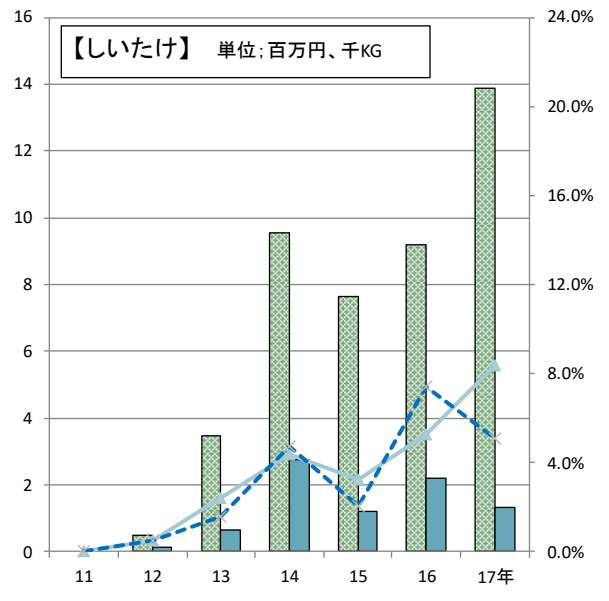
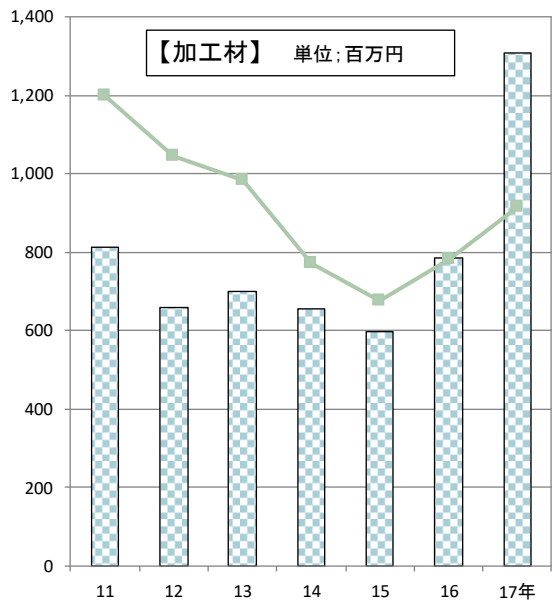
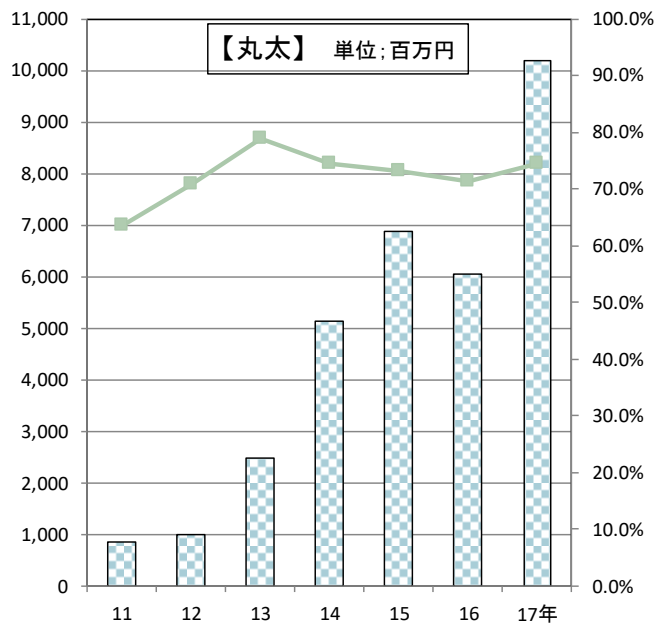
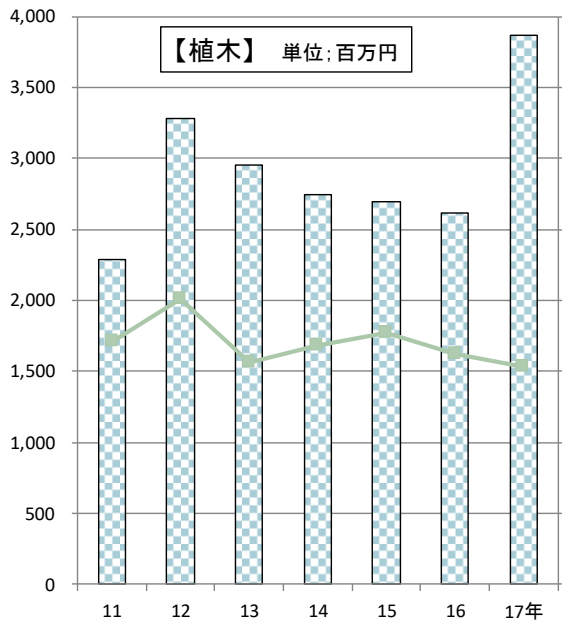
九州輸出額 九州数量 輸出額全国比 数量全国比



○ビールと日本酒の輸出額は年々増加しており、ビールについては輸出額の全国比が約6割となっている。

備考：HSコードは次のとおり。【ビール】2203、【焼酎】220890100、【日本酒】220600200

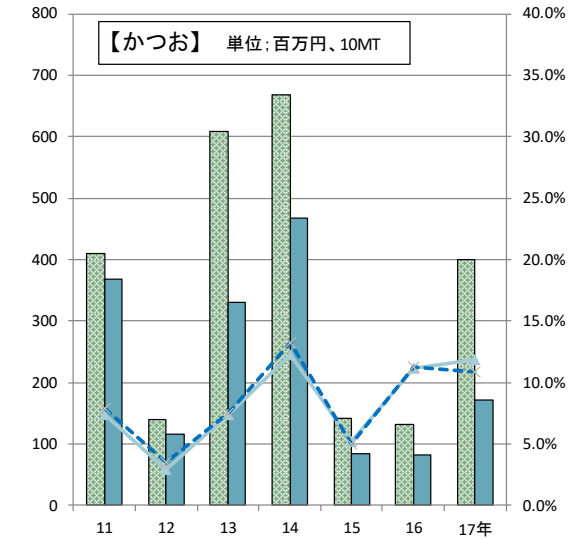
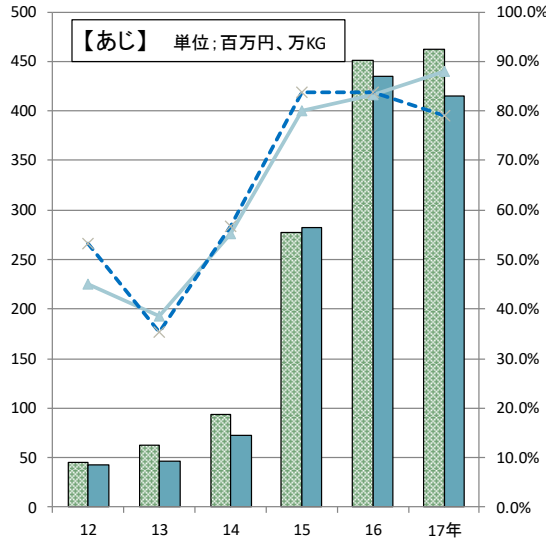
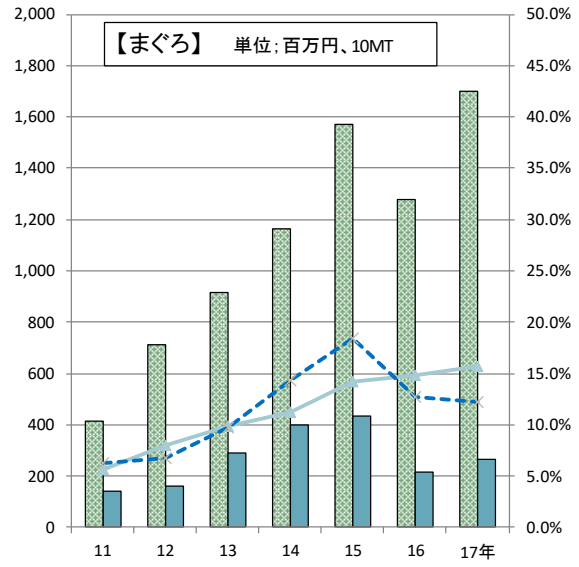
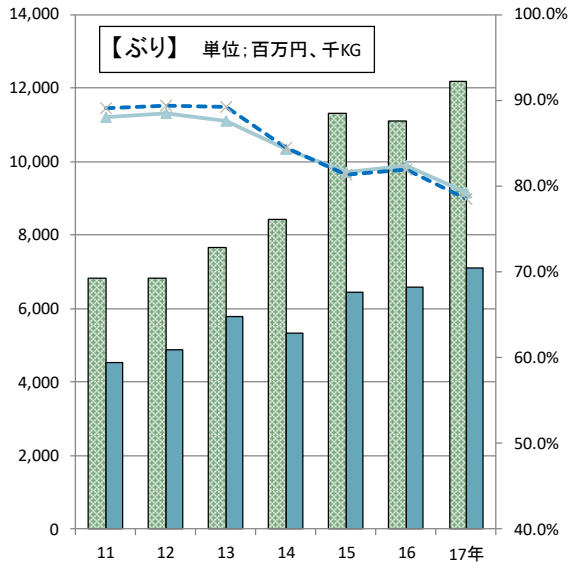
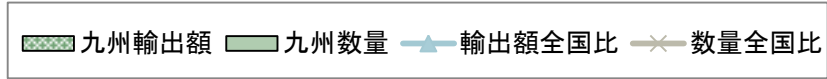
④ 林産物



○輸出額が大きい林産物は、丸太や植木である。輸出額の全国比が高いのは丸太である。
○丸太の輸出額について、2017年は前年より増加し、2011年と比べると、10倍以上に増加した。

備考：HSコードは次のとおり。【植木】060230、060240、060290100、060290900、【丸太】4403、
【加工材】4407、4409、【しいたけ】071239100

⑤ 魚介類



○ぶりの輸出額がもっとも大きく、全国に占める割合も高い。

備考：HSコードは次のとおり

【ぶり】 030449200、030459200、030489200

【まぐろ】 概況品 00701012

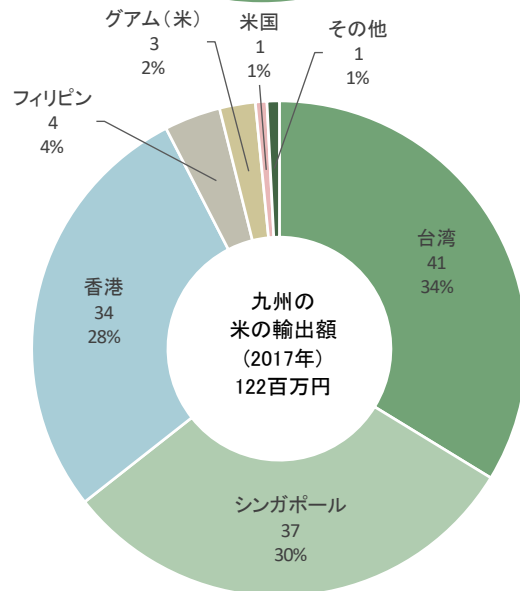
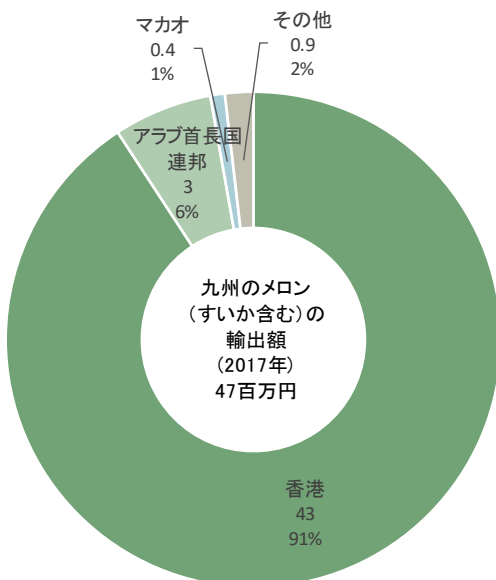
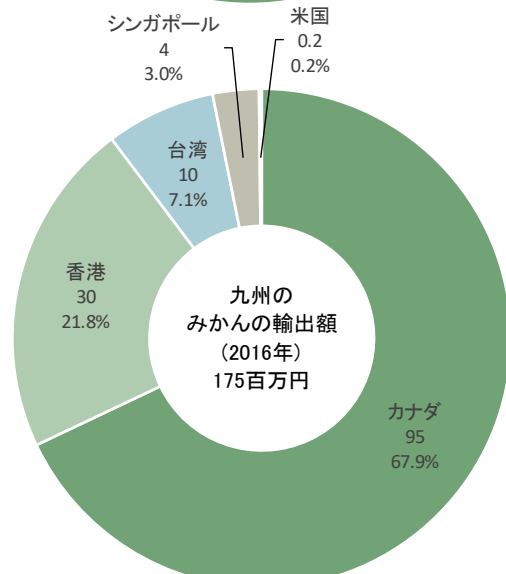
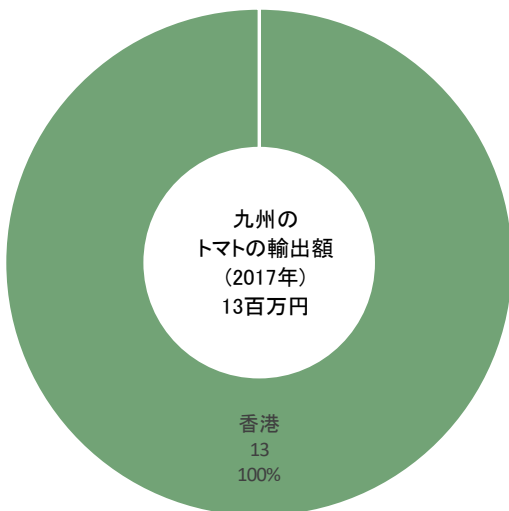
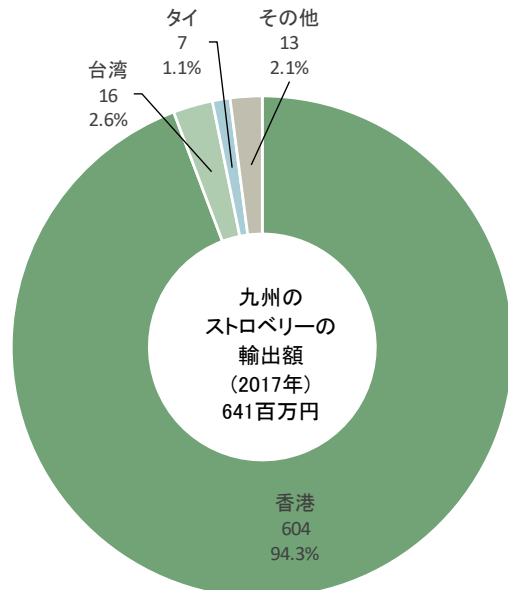
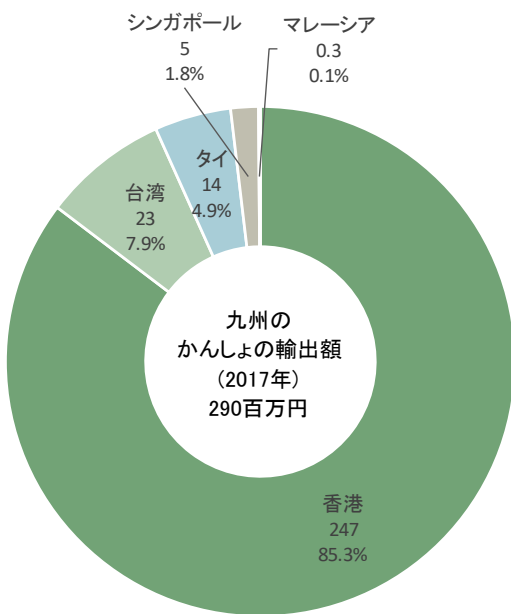
【かつお】 概況品 00701011

【あじ】 030245、030355

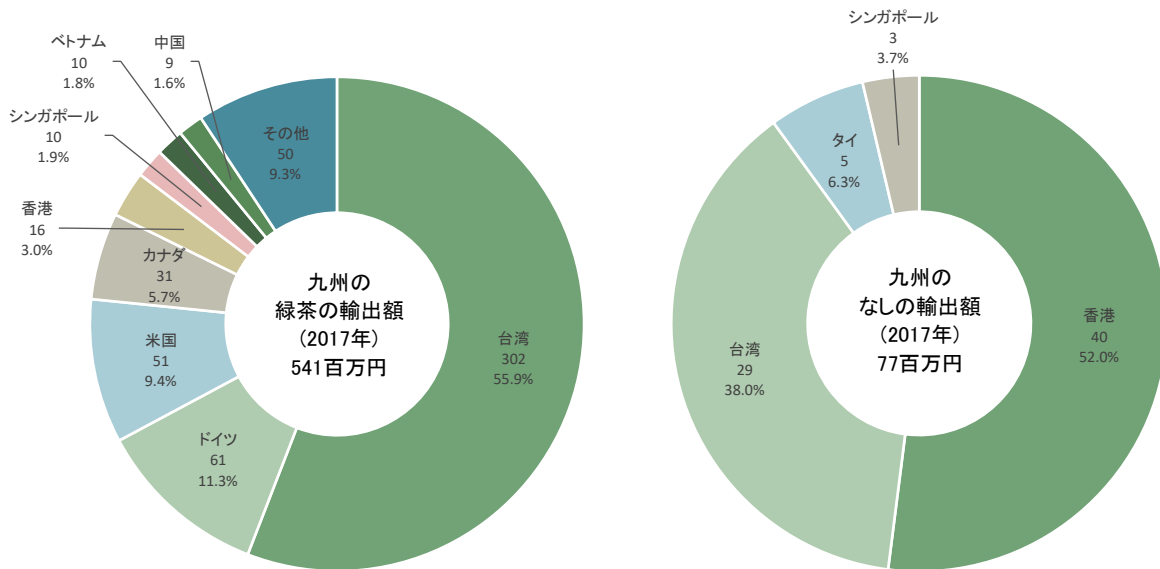
図表 3-6-2 九州の主要な農林水産物の輸出先

① 野菜・果物等

(単位：百万円、%)



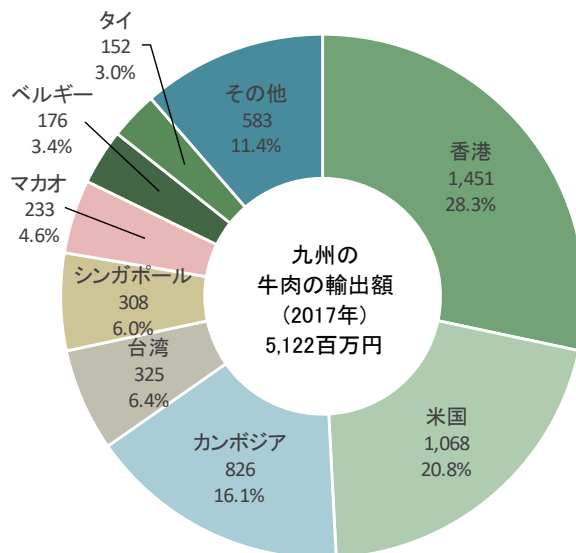
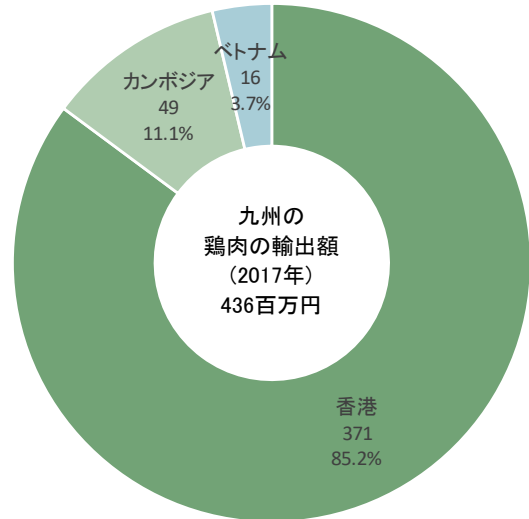
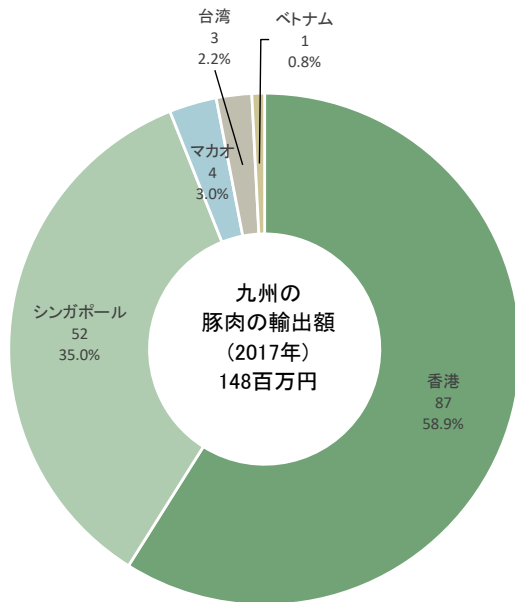
(単位：百万円、%)



○かんしょ、ストロベリー、トマト、メロン等多くの野菜・果物が香港向けに輸出されている。
○みかんの輸出先はカナダが最も多く、緑茶の輸出先は台湾が最も多い。

② 肉類

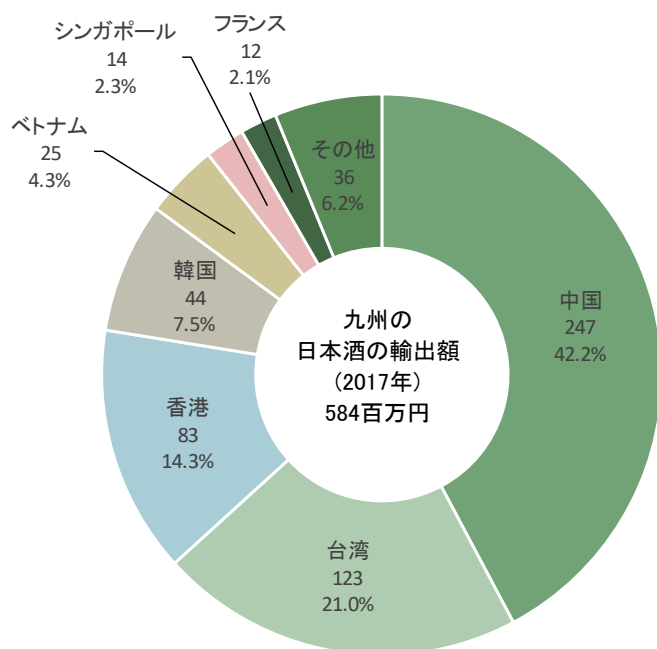
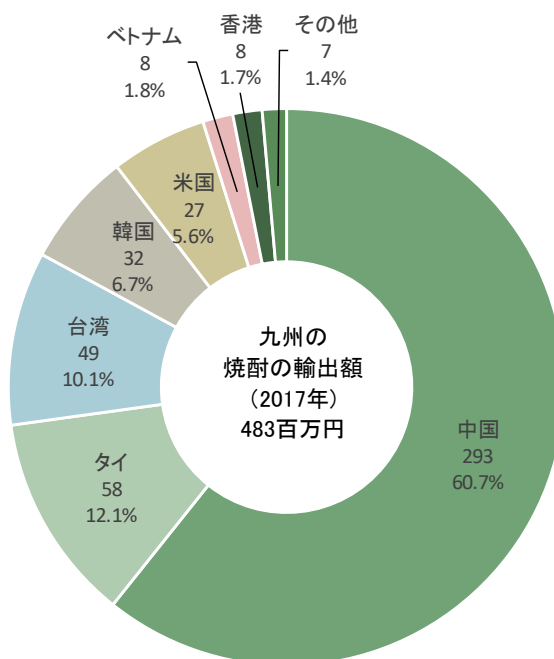
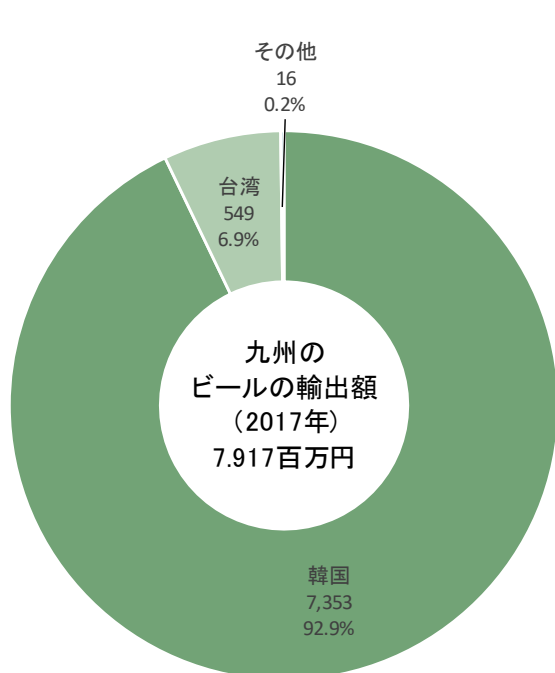
(単位：百万円、%)



○豚肉、鶏肉、牛肉ともに輸出先は香港が第1位である。
○牛肉については、米国が第2位となっている。

③ 酒類

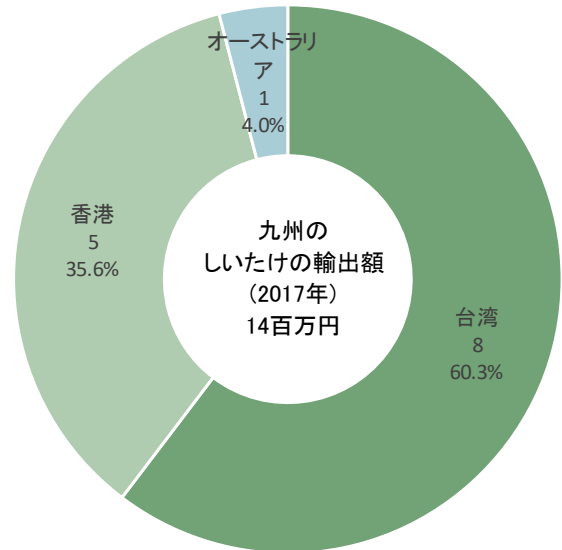
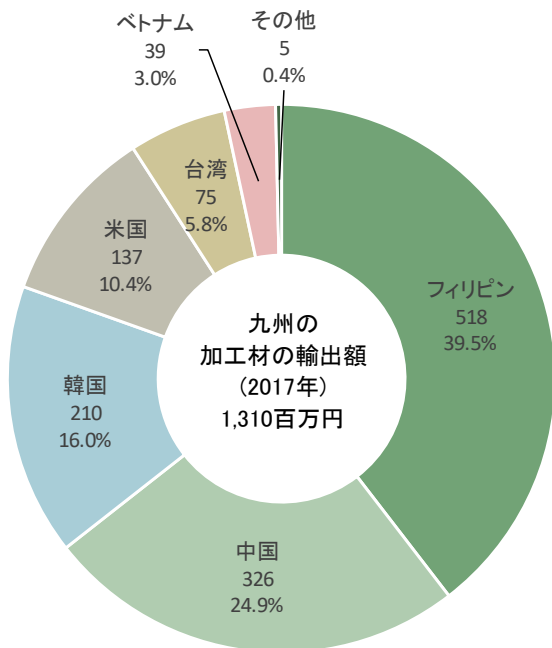
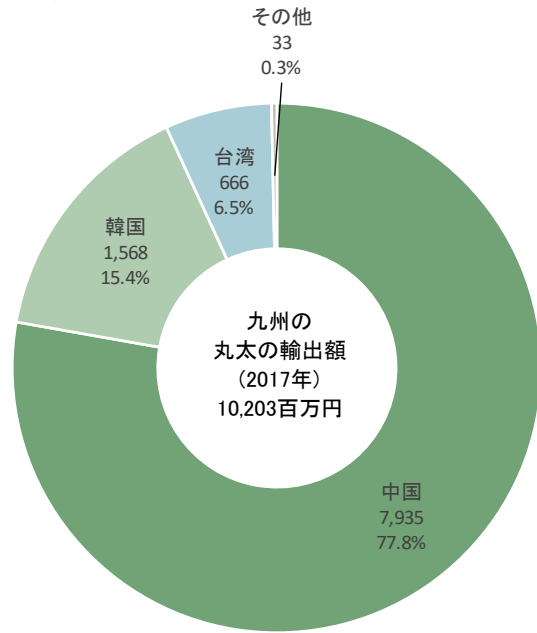
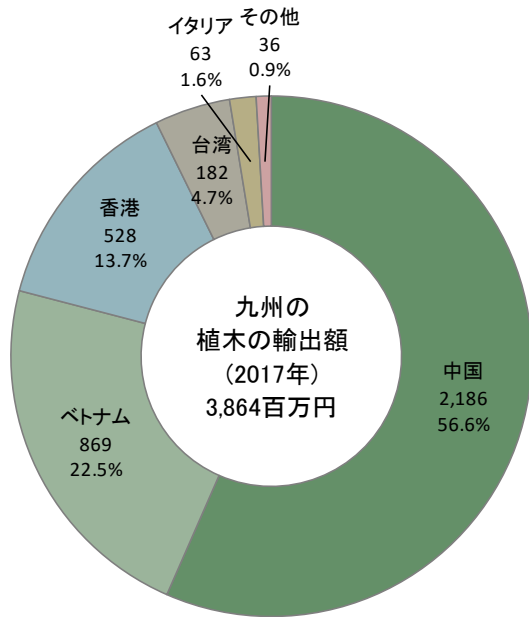
(単位：百万円、%)



○ビールは韓国、日本酒と焼酎は中国が最大の輸出先で、アジア向けの輸出が多い。

④ 林産物

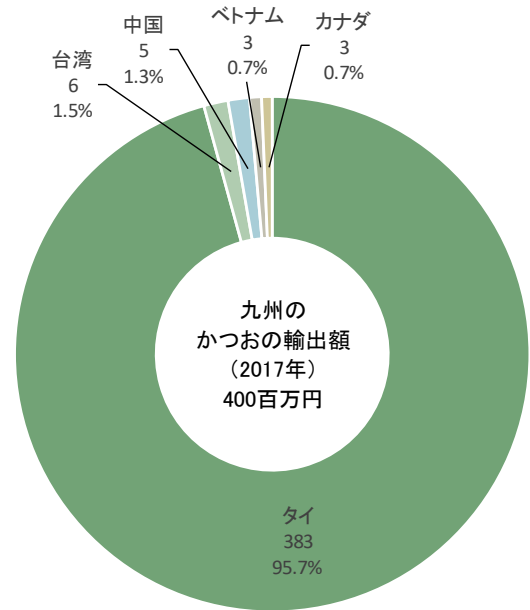
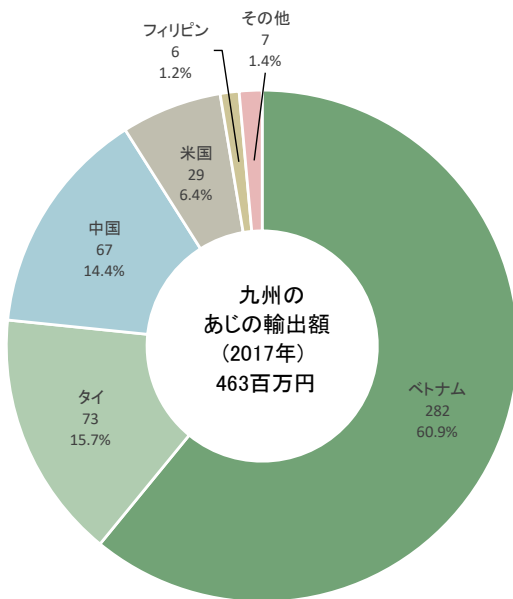
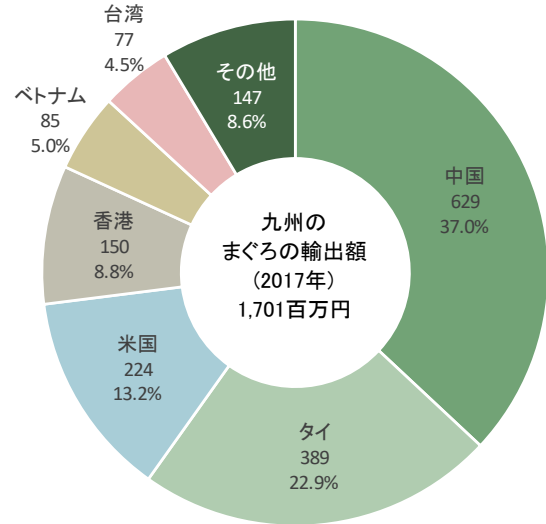
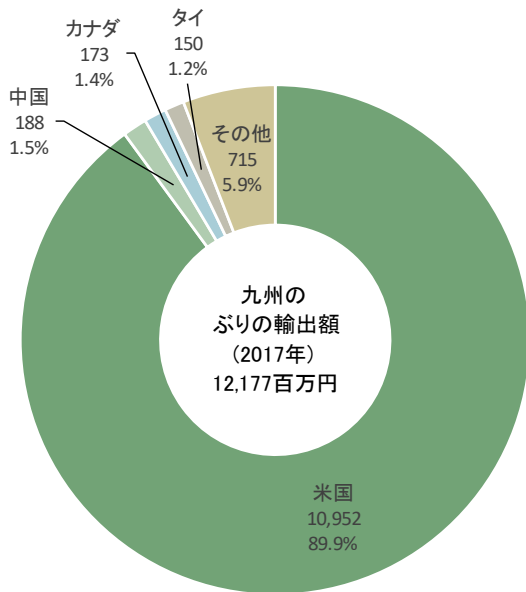
(単位：百万円、%)



○林産物の輸出はアジア向けが大半を占めており、丸太及び植木は中国、加工材はフィリピンが最大の輸出先となっている。

⑤ 魚介類

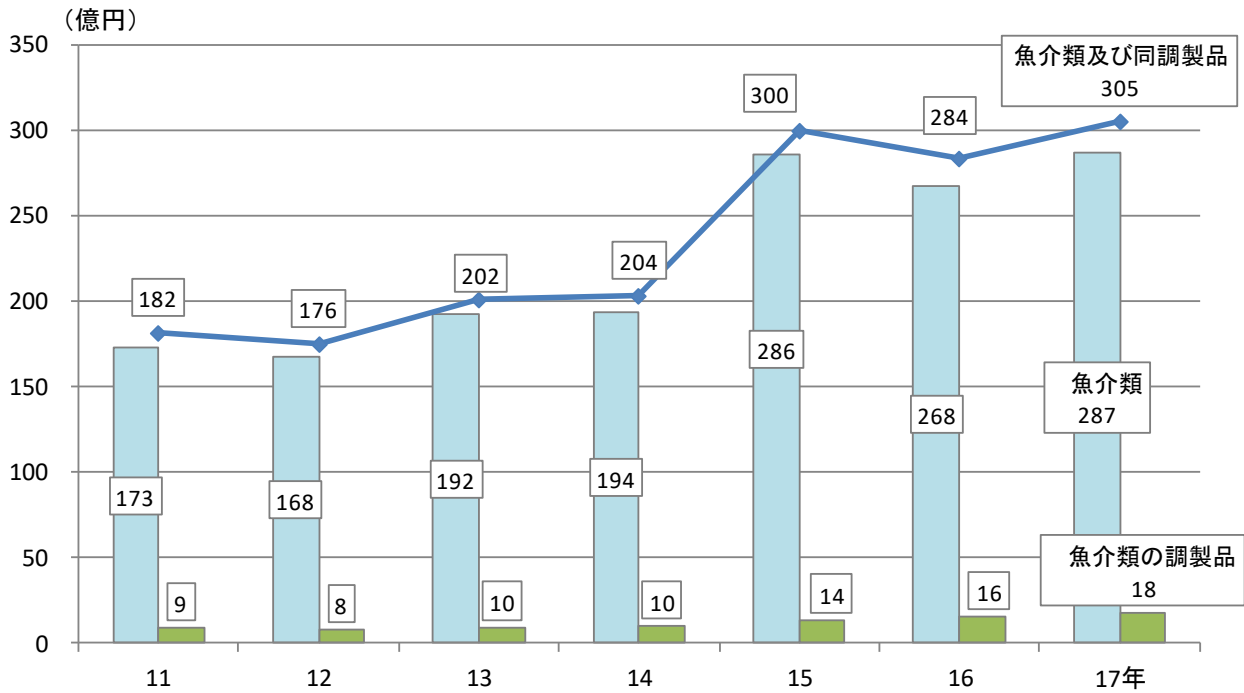
(単位：百万円、%)



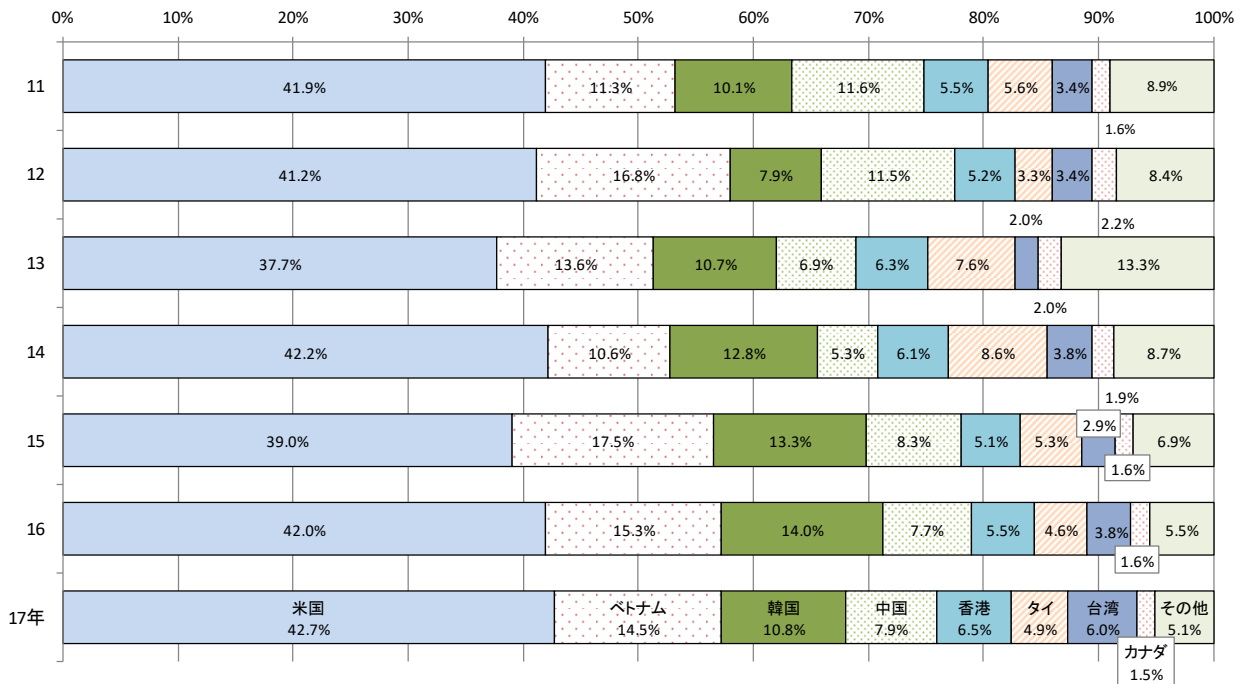
○魚介類の輸出先については、米国向けが多く、特に、ぶりについては大半を占めている。その他、中国や香港、ASEAN 諸国などアジアが多い。

図表 3-6-1~2 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

図表 3-6-3 九州の魚介類及び同調製品輸出額の推移



図表 3-6-4 九州の魚介類及び同調製品の輸出相手国・地域の推移

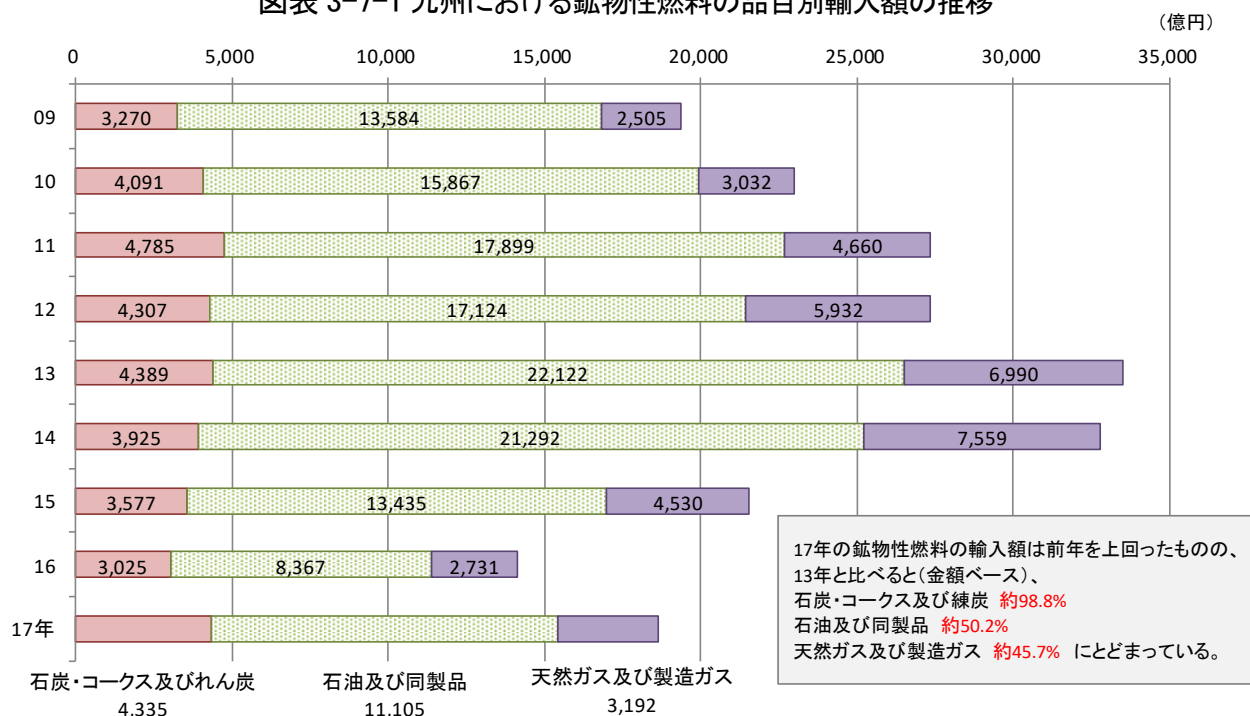


図表 3-6-3~4 出所：財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。

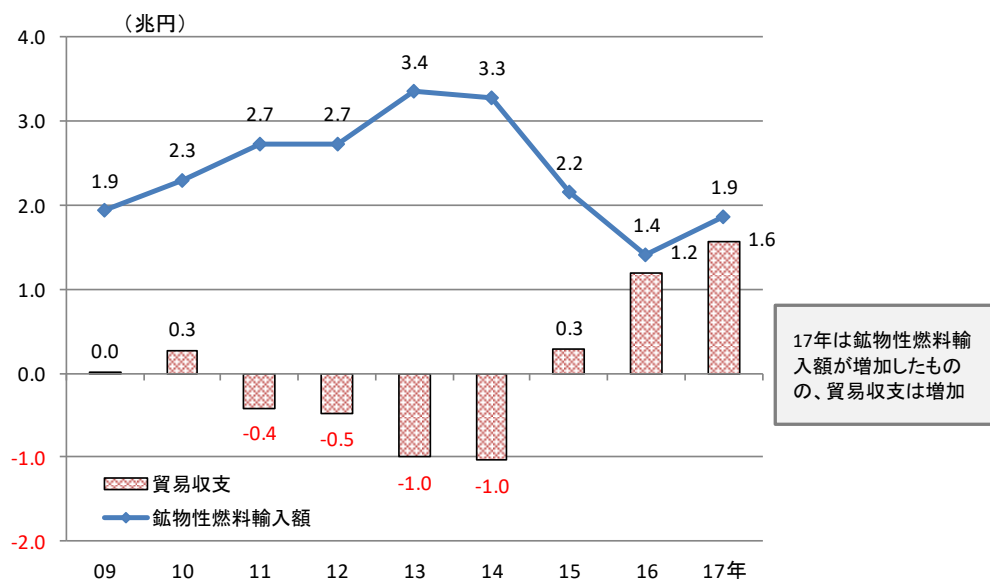
7. 鉱物性燃料

- 2017年の九州の鉱物性燃料の輸入額は1兆8,632億円（前年比31.9%増）で前年より増加し、4年ぶりに増加に転じた。品目別では、石炭・コークス及び練炭、石油及び同製品、天然ガス及び製造ガスのいずれも輸入額が前年より増加した。
- 2011年の東日本大震災以降、鉱物性燃料の需要増により、九州においても鉱物性燃料の輸入額が増加し、貿易収支が赤字となった。その後、2015年になると鉱物性燃料の輸入額が大幅に減少し、貿易収支も5年ぶりに黒字に転じた。2016年も鉱物性燃料の輸入額が大幅に減少し、貿易収支は2年連続の黒字となった。2017年は前年より大幅に増加したものの、それ以上に輸出額が増加し、貿易収支は3年連続の黒字となった。

図表 3-7-1 九州における鉱物性燃料の品目別輸入額の推移

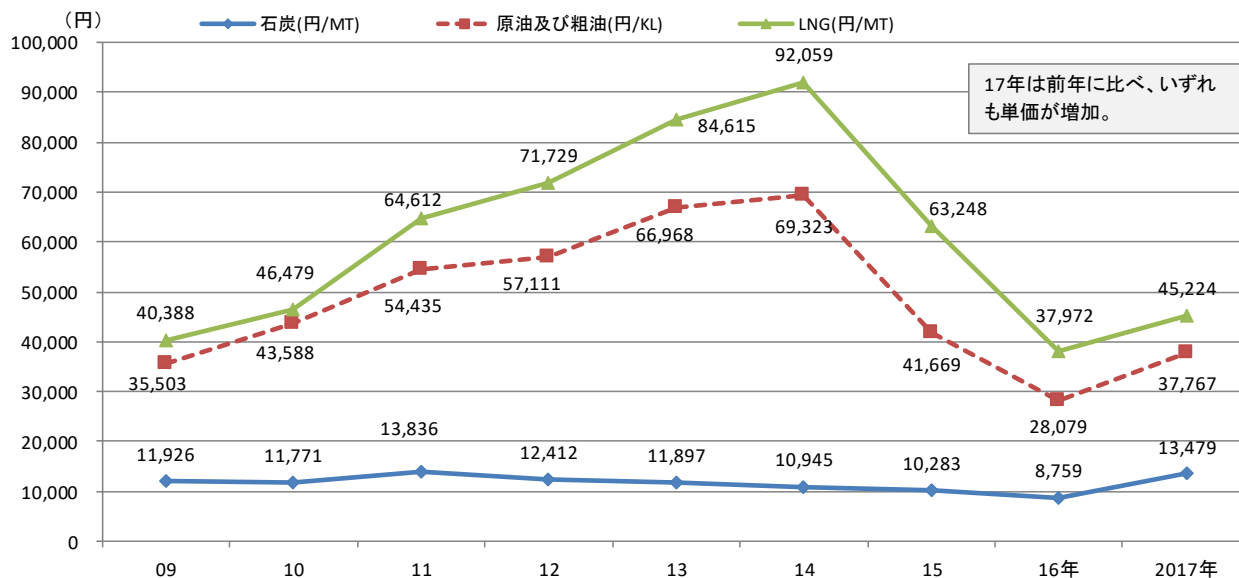


図表 3-7-2 九州における鉱物性燃料輸入額と貿易収支の推移



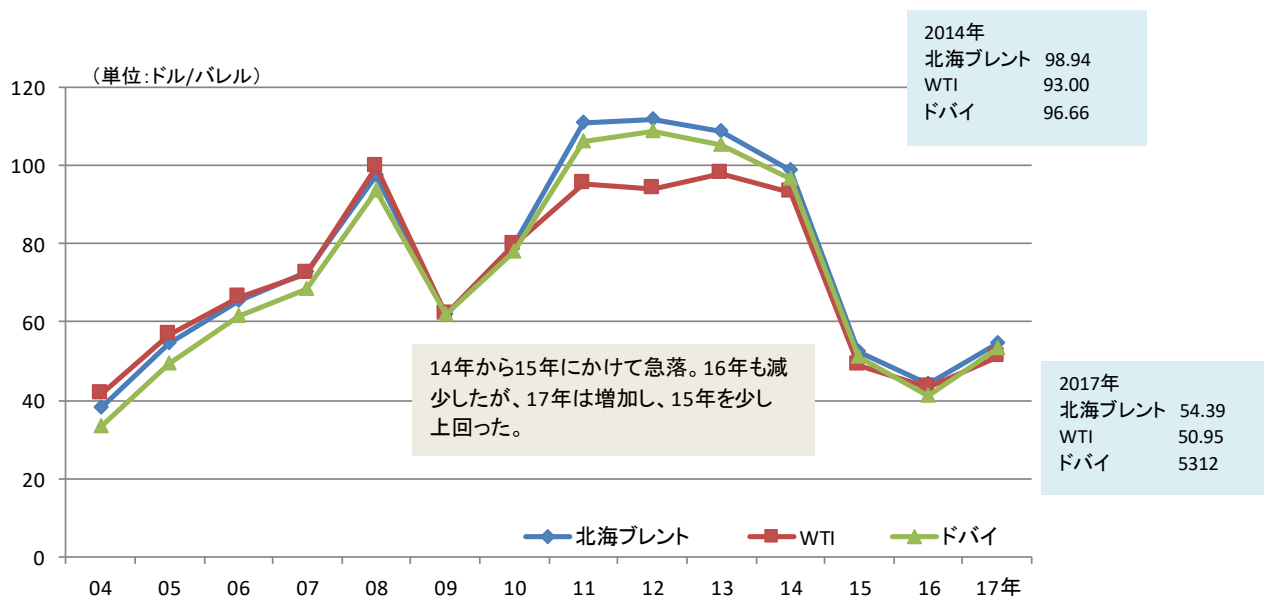
- 主な鉱物性燃料（石炭、原油及び粗油、LNG）の輸入単価をみると、石炭は2011年以降、緩やかに減少した。原油及び粗油とLNGについては2014年までは上昇を続けていたが、2015年に大きく下落した。2016年もさらに下落した。しかし、2017年はすべて上昇に転じた。
- ここで、原油相場における原油価格をみると、2015年に大幅に下落し、2016年は前年よりさらに下落したものの、2017年は前年を上回り、上昇に転じた。
- なお、2017年の主な鉱物性燃料（石炭、原油及び粗油、LNG）の輸入数量をみると、いずれも前年に比べて減少した。

図表 3-7-3 九州の主な鉱物性燃料の輸入単価



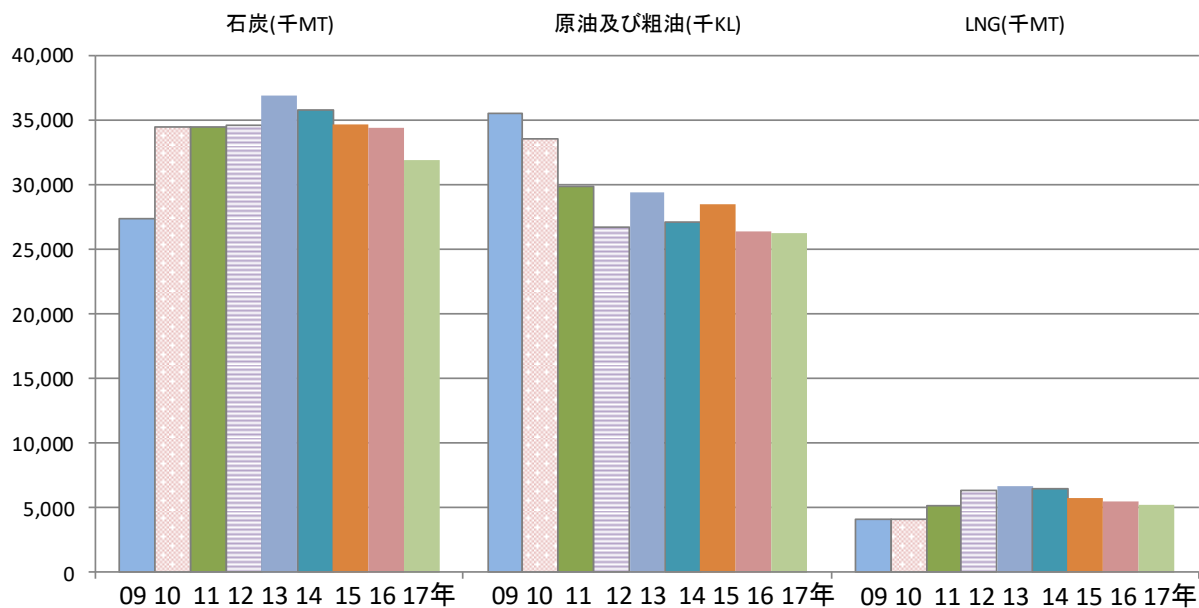
備考:それぞれの輸入単価は各年の輸入金額を輸入数量で割った値。

図表 3-7-4 原油相場における原油価格の推移

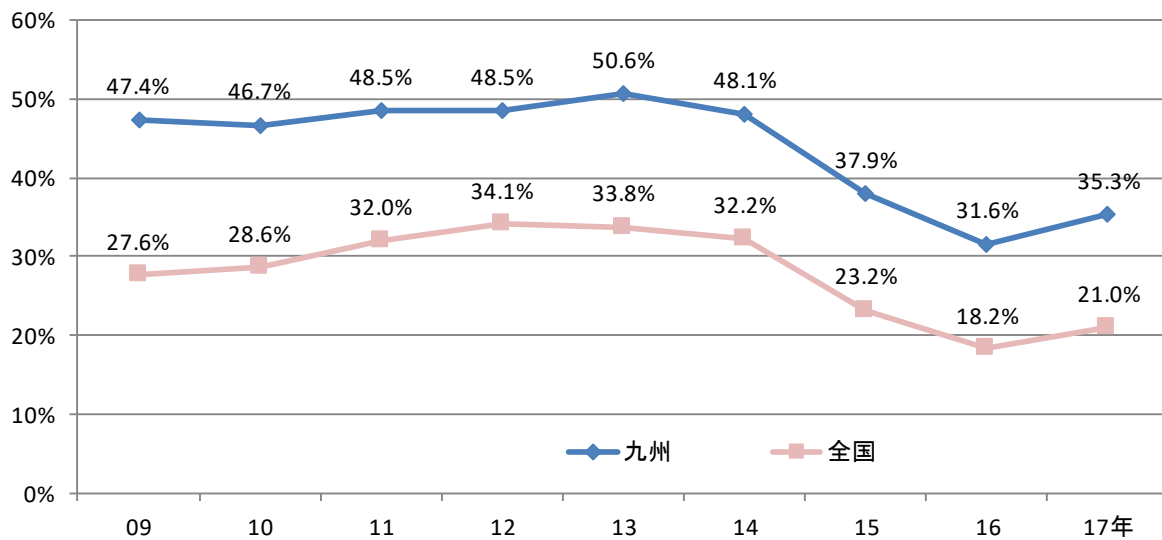


出所:内閣府「月刊海外経済データ」より九州経済産業局作成。

図表 3-7-5 九州の主な鉱物性燃料の輸入数量の推移



図表 3-7-6 九州と全国の輸入総額に占める鉱物性燃料の割合



図表 3-7-1~5 出所: 財務省「貿易統計」より九州経済産業局作成。